

科目名	キャリアデザイン (社会福祉学部)				
科目責任者	井川 淳史				
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 56 セメスター				
DP 番号と科目領域	(SW) DP4 教養基礎 (SC) DP4 教養基礎				
科目の位置付	(SW) 自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。 (SC) 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。				
科目概要	本講義では、社会で「働く」ことの意義を大学で「学ぶ」こととの関連で理解した上で、就職活動に必要な知識、技術並びに心構えを学びながら、社会人として求められる基礎力を身に着ける。そして、学生一人ひとりが「人」として、「社会福祉専門職者」としての人生設計をいかに創造していくのかについて考える。				
到達目標	1. キャリアデザインの重要性を理解することができる。 2. 社会人として必要とされるコミュニケーション力や文章力・表現力などを身につける。 3. 自己の社会的役割を理解してキャリア形成のビジョンを描くことができる。				
授業計画	<p><担当教員> <授業テーマ、内容></p> <p>第1回：井川、福重、仲、渡邊 社会で「働く」とは、働くこととストレスについて 社会人として求められる力、社会人基礎力とは何か</p> <p>第2回：井川、福重、仲、渡邊 社会人としての基礎力を身につける① (外部講師) あいさつ、みだしなみ、礼儀作法などのマナーを身につける</p> <p>第3回：井川、福重、仲、渡邊 社会人としての基礎力を身につける② (外部講師) アサーションとは何か、問題解決のステップ</p> <p>第4回：井川、福重、仲、渡邊 採用側が学生に望むこと (ゲストスピーカー2名)</p> <p>第5回：井川、福重、仲、渡邊 模擬面接を体験する (キャリア職員)</p> <p>第6回：井川、福重、仲、渡邊 4年生による就職活動報告会 社会福祉の現場に就職が決まっている先輩から、就職活動の実際を学ぶ</p> <p>第7回：井川、福重、仲、渡邊 社会人としての基礎力を身につける③ (キャリア職員) エントリーシートを書き方を学んだ上で、各自で作成を試みる</p> <p>第8回：井川、福重、仲、渡邊 自己分析と自分のキャリアデザインを描く 自己分析の方法を学び、自分のキャリアデザインを考える</p>				
アクティブラーニング	グループワークや共同作業を織り込んだプログラムを展開する。				
授業内の ICT 活用	WebClass を利用する				
評価方法	授業態度 20%、提出物等 80%				
課題に対するフィードバック	積極的に提出課題やリアクション等へコメントする。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考

参考図書	・加藤容子他（2014）『わたしのキャリア・デザイン 社会・組織・個人』ナカニシヤ出版 ・笹川孝一（2014）『キャリアデザイン学のすすめ 仕事、コンピテンシー、生涯学習社会』 法政大学出版局				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	事前学修：事前課題に必ず取り組んだ上で授業に参加すること。 事後学修：リアクションペーパーや事後課題に丁寧に取り組むことで、授業の理解度を自己評価すること。 目安時間 40 分。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	井川 淳史（2603 研究室） メール：atsushi-ik@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示する。				
実務経験に関する記述	本科目は、社会福祉、介護、教育、保育の実務経験を有する講師が教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	教育制度論				
科目責任者	太田 知実				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。				
科目概要	<p>本講義は、教育制度の導入背景や概要を理解し、教員として諸制度にどう向き合うかを考えることを目的とする。</p> <p>制度という言葉からは固い印象を受けるが、子どもたちが公平に安定して教育を受けるために必要かつ重要である。またそれは、私たちが受け身で従うべきものというより、知恵や工夫を凝らして能動的に向き合うことで初めて高い効果を発揮するものである。</p> <p>本講義では、今の教育課題も踏まえながら、教育の制度に関する知識の習得を目指すとともに、教育の思想や実践を効果的に実現できるような、教員としての力量を培うことを目指す。とくに、学校と地域の連携や、安全と安心の学校づくりなど、現代的な課題にも焦点をあてる。</p>				
到達目標	<p>1. 教職に必要な教育制度に関する基礎概念、諸学説、基本的論点、課題に関する理解を深める。</p> <p>2. 教育制度に関わる具体的な人物（幼児・児童、教師、保護者、地域住民など）を具体的に想定し、現行教育制度の利点・欠点や効果的な活用方法について、積極的・能動的に探究する。</p>				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：現代教育の制度①公教育の原理と理念 担当：太田知実</p> <p>第3回：現代教育の制度②教育法制の概要 担当：太田知実</p> <p>第4回：現代教育の制度③教育行政と教育政策 担当：太田知実</p> <p>第5回：地方教育政策の展開①学校と地域の連携をめぐる論点 担当：太田知実</p> <p>第6回：地方教育政策の展開②教育委員会制度の理念 担当：太田知実</p> <p>第7回：地方教育政策の展開③教育委員会制度の仕組み 担当：太田知実</p> <p>第8回：教員をめぐる教育制度①教員のサービス・研修 担当：太田知実</p> <p>第9回：教員をめぐる教育制度②教員の給与制度 担当：太田知実</p> <p>第10回：教員をめぐる教育制度③教員評価制度 担当：太田知実</p> <p>第11回：担当：飯田真也</p> <p>今日的教育課題に対応した地方教育行政の施策と具体的活動①学校の組織マネジメント</p> <p>第12回：担当：飯田真也</p> <p>今日的教育課題に対応した地方教育行政の施策と具体的活動②学校安全等</p> <p>第13回：教育制度の現代的課題①開かれた学校づくり 担当：太田知実</p> <p>第14回：教育制度の現代的課題②格差社会と教育 担当：太田知実</p> <p>第15回：講義のまとめ 担当：太田知実</p>				
アクティブラーニング	グループ・ディスカッション、グループワーク				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	各講義内で提出する小レポート 60% 期末レポート 40%				
課題に対するフィードバック	毎回、講義のはじめに、前回の小レポートの回答をいくつか取り上げ、コメントする。				
指定図書	古田薫・山下晃一編著『法規で学ぶ教育制度』ミネルヴァ書房、2020年。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：テキストの該当箇所に目を通しておく。(2回～15回) ・事後学修：テキストを再度読んだり、追加で関連資料・文献を調べたりして、授業内容について理解を深める(2～15回) <p>※毎回の事後学修の目安時間は40分です。</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	太田 知実(看護学部所属)(1210 研究室) メール:tomomi-ot@seirei.ac.jp 詳細は授業初回時に提示します。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	教育課程論
科目責任者	太田 知実
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	本授業では、学校教育（小学校・幼稚園）で教育課程が有する意義と教育課程の歴史的な経緯について理解を深める。また、教育課程の編成の基本原理と方法（手法）、学習指導要領・幼稚園教育要領に規定されるカリキュラム・マネジメントの意義や重要性、評価の方法を理解する。児童・幼児の発達や学習との関連から系統的に構築された教育計画の実際を学ぶ。さらに実習等の具体的な場面を想定し、教材研究・活用の仕方を踏まえて、指導計画案を作成し実践する。
到達目標	1. 学校教育（小学校・幼稚園）において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。 2. 教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 3. 教科・領域をまたいでカリキュラムを把握し、教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。
授業計画	<p><科目担当>太田知実、太田雅子、飯田真也、福重浩之、杉山沙旺美 <授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：太田知実 現行の学習指導要領下の学校（幼稚園）教育の社会的状況と検討課題</p> <p>第2回：太田知実 教育課程の意義と役割及び機能</p> <p>第3回：太田知実 教育課程の編成の原理とガイドライン（学習指導要領）の内容との関係性</p> <p>第4回：太田知実 学習指導要領の改訂の変遷・性格と基本構造</p> <p>第5回：太田雅子 幼稚園教育要領の改訂の変遷・性格と基本構造（全体的な計画）</p> <p>第6回：太田雅子 フィンランド・ニュージーランドの教育</p> <p>第7回：太田知実 カリキュラム・マネジメントの意義と重要性・小テスト</p> <p>第8回：太田知実 長期的指導計画の作成（小学校）</p> <p>第9回：太田知実 短期的指導計画の作成（小学校）（教科横断的学習を意識して）</p> <p>第10回：太田雅子 指導計画の作成・自発的学びを意識して（幼稚園）</p> <p>第11回：太田雅子 指導計画の作成の実際（幼稚園）</p> <p>第12回：太田雅子、杉山沙旺美、飯田真也、福重浩之 学習・保育指導案の作成と教育評価（1）</p> <p>第13回：太田雅子、杉山沙旺美、飯田真也、福重浩之 学習・保育指導案の作成と教育評価（2）</p> <p>第14回：太田雅子、杉山沙旺美、飯田真也、福重浩之 模擬授業・保育の実施と評価（1）</p> <p>第15回：太田雅子、杉山沙旺美、飯田真也、福重浩之 模擬授業・保育の実施と評価（2）</p> <p>定期試験は行いません</p>
アクティブラーニング	指導計画を作成し模擬保育・模擬授業を行う。さらに教材に実際に触れ・活用しながら学生相互に学び合いをする。レクチャーを受けてのグループ・ディスカッションや発表を行う。

授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	授業態度 20%、課題提出物の評価・小テスト 40%、小レポート 40%					
課題に対する フィードバック	各回に記入するリアクション・ペーパー（小レポート）について、次の授業の中でフィードバックや解説を行う。また、指導計画・教材・模擬授業に対して、その都度フィードバックを行う。					
指定図書	小学校学習指導要領 解説・総則編 幼稚園教育要領解説					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	教材研究や指導計画のための課題を事前に提示する。振り返りについては、保育・教育実践(実習)と直結する具体性のある環境構成・活動(遊び)や指導・援助について考察するための内容を提示する。【目安時間 40 分】					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	太田 知実(看護学部所属)(1210 研究室) メール:tomomi-ot@seirei.ac.jp 詳細は授業初回時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は、幼稚園教諭・小学校教諭の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	道徳理論と指導法
科目責任者	内崎 哲郎
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	小学校における道徳教育の意義・目標・内容や課題について、児童期の特性や幼児教育及び中等教育との関連で理解するとともに、現代の道徳教育の基盤となる価値、道徳性の概念、歴史や社会とのかかわりなどを検討する。さらに、それを踏まえ、道徳教育の要としての「道徳の時間」の目標や特質、小学校における授業の計画作成、指導方法について具体的に理解することを主目的とする。
到達目標	1. 道徳とは何か、その今日的意義と重要性について理解できる。 2. 小学校の教育課程における道徳の位置づけと道徳教育の目標・内容について理解できる。 3. 道徳教育の全体指導計画の意義を理解し、教育活動全体を通しての指導の必要性について説明できる。 4. 「道徳の時間」の指導過程や指導方法に関する基本的事項を理解し、学習指導案の作成に生かすことができる。
授業計画	<p><担当教員名> 内崎哲郎、仲義之 <授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：子どもの心の成長と道徳教育の意義 内崎哲郎 第2回：道徳教育の歴史 内崎哲郎 第3回：学習指導要領総則に示された道徳教育 内崎哲郎 第4回：学習指導要領に示された「特別の教科 道徳」の意義 内崎哲郎 第5回：道徳科学習指導案作成の手順 内崎哲郎 第6回：資料を基に学習指導案の作成 内崎哲郎 第7回：道徳科の授業の実際の様子（映像）に学ぶ 内崎哲郎 第8回：模擬授業の指導案作成 内崎哲郎 第9回：各自が作成した学習指導案からの学び合い（模擬授業①） 内崎哲郎 第10回：各自が作成した学習指導案からの学び合い（模擬授業②） 内崎哲郎 第11回：宗教的情操を育む道徳教育（聖書による授業） 仲義之 第12回：命の尊厳を育む道徳教育（聖書による授業） 仲義之 第13回：「考え、議論する道徳」の授業作り 内崎哲郎 第14回：道徳科の授業における指導方法・指導技術 内崎哲郎 第15回：道徳科の評価 内崎哲郎</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・小グループや隣同士の話し合い（グループディスカッション・グループワーク） ・学生同士で意見を交流したり、発表したり、練り合ったりする授業展開 ・学生との対話型の双方向コミュニケーションの授業 ・作成した指導案のプレゼンテーション ・アクティブラーニングの3つの柱である「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を意識したレポートの課題
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッションや個人検討でまとめたものや学習指導案のプレゼンテーションとしてプロジェクターや教材提示装置を活用して行う。 ・授業のビデオ映像を活用する。
評価方法	<p>40%：レポート（各回の授業内容について概要を把握し、それに対する自分なりの気付きや感想、考察等を書く。） 30%：学習指導案の作成と模擬授業 30%：定期試験）ルーブリックにしたがって評価する。）</p>
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の授業で出した課題について提出させたレポートの解説・コメントを、授業の始めに行う。 ・道徳教育の意義や目標、「特別の教科 道徳」の特質や目標について理解しているか、ルーブリックにしたがって評価する。
指定図書	・「小学校学習指導要領」

他は以下に記載します。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科道徳編	文部科学省／〔著〕	廣済堂あかつき	135	9784908255359	
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・「小学校学習指導要領 ポイント総整理 特別の教科 道徳」永田繁雄（東洋館出版社） ・「自ら学ぶ『道徳教育』」押谷由夫（保育出版社） 				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修では、前時の授業の最後に示した内容について、課題意識をもたせ、課題解決に向けての見通しをもって、自分自身の考え方をまとめる。（30分） ・事後学修では、授業内容について概要を把握し、それに対する自分なりの気付きや感想をレポートにまとめる。（60分） 				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法					
科目責任者	鈴木 光男					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP5 専門					
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。					
科目概要	特別活動と総合的な学習の時間について教育課程上の位置づけと役割を理論的に検討する。そのうえで、教員の現代的な役割を確認したうえで、指導法の観点から特別活動と総合的な学習の時間の実践事例を検討する。小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代学校の教育課程の基本理解をふまえ、特別活動と総合的な学習の時間の教育課程上の位置づけと役割について捉えることができる。 ・教員の現代的な役割を理解したうえで、特別活動と総合的な学習の時間について教育実践の観点から具体的事例をもとに、指導法に関する知識と技法について理解している。 					
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>鈴木光男 梅澤収</p> <p>第1回：イントロダクション 鈴木光男 本授業の概要・進め方・評価について、学習指導や参考書を紹介する。</p> <p>第2回：現代学校の教育課程と学習指導要領①：小学校編 梅澤収</p> <p>第3回：現代学校の教育課程と学習指導要領②：中・高編 梅澤収</p> <p>第4回：特別活動の内容①：学級活動 梅澤収</p> <p>第5回：特別活動の内容②：児童会（生徒会）、クラブ活動、学校行事 梅澤収</p> <p>第6回：特別活動の実践① 梅澤収 事例を検討する。</p> <p>第7回：特別活動の実践② 梅澤収 事例と体験から実践を構想する（ワークシート）。</p> <p>第8回：グループワークⅠ 上記構想案の発表 梅澤収</p> <p>第9回：特別活動と総合的な学習の時間の体験①（ワークシート） 鈴木光男</p> <p>第10回：特別活動と総合的な学習の時間の体験②：グループ討論 鈴木光男 兵庫教育大学附属小学校の「うれしの活動」等の実践事例をもとに検討する。</p> <p>第11回：総合的な学習の時間のカリキュラムデザイン 鈴木光男 学習指導要領の前文・SDGs の関連から求められるカリキュラムや実践の方向</p> <p>第12回：総合的な学習の時間の実践① 鈴木光男 事例を検討する。</p> <p>第13回：総合的な学習の時間の実践② 鈴木光男 事例と体験から実践を構想する（電子黒板やミライシード等 ICT の活用）。</p> <p>第14回：グループワークⅡ 上記構想案の発表 鈴木光男</p> <p>第15回：授業全体の総括 鈴木光男</p>					
アクティブラーニング	グループでのディスカッション・グループワーク 小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。					
授業内の ICT 活用	Web 動画の視聴をしたり、指導資料を活用したりする。また、ICT を活用した授業実践を構想したりする。					
評価方法	授業の到達目標と授業への参加・取組状況を、3つの観点をもとに総合的に評価する。 ①レポート・試験（40%）（試験は、第2～8回の授業を範囲としたもの） ②課題設定、検討・議論、表現・発表等のコンピテンシー（40%） ③学習意欲・態度（20%）					
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパーをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。レポートはループリックを用いて評価する。ループリックの内容は授業中に提示する。					
指定図書	小学校学習指導要領・同総則解説・特別活動解説・総合的な学習の時間解説					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	

参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。(学修の目安時間は40分)				
オープンエデュケーションの活用	自主学習として、以下の URL の番組の受講を勧めます。 NHK for school 総合的な学習の時間 https://www.nhk.or.jp/school/sougou/				
オフィスアワー	鈴木 光男 (1613 研究室) メール:mitsuo-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	教育方法・技術論
科目責任者	飯田 真也
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。
科目概要	子どもたちの主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、学びのプロセスや具体的方法(授業・保育の展開)を理解する。子どもの思考力・表現力を促すための方法や教材・ICT活用等の方法・能力を身につける。さらに個々が指導計画案を作成し、実践と振り返り、課題の明確化を行い次に繋げられるようにする。
到達目標	1. これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。 2. 教育の目的に適した指導技術を理解し、身につける。 3. 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につける。
授業計画	<p><担当教員名>飯田真也、太田知実、太田雅子、竹本石樹、モーテンヴァテン <授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：太田雅子・太田知実 これからの時代にふさわしい教育・育成すべき資質・能力とは</p> <p>第2回：太田知実 教師に求められる指導力とは：アクティブ・ラーニングの視点からの学習のあり方</p> <p>第3回：太田知実 授業づくりの原理</p> <p>第4回：太田知実 教育目標・学習評価論</p> <p>第5回：太田知実 学習環境の種類と工夫(小テスト)</p> <p>第6回：太田雅子・太田知実 学習の形態、保育の形態</p> <p>第7回：太田雅子(ゲストスピーカー) 学びと教材の活用の実際①</p> <p>第8回：太田雅子(ゲストスピーカー) 学びと教材の活用の実際②(教材の考案)</p> <p>第9回：竹本石樹 情報教育メディアの活用と技術(基本)</p> <p>第10回：竹本石樹 情報教育メディアの活用と技術(実践)</p> <p>第11回：モーテンヴァテン 探究型学習・問題解決学習の実践に向けての方法①</p> <p>第12回：モーテンヴァテン 探究型学習・問題解決学習の実践に向けての方法②</p> <p>第13回：太田雅子・モーテンヴァテン・飯田真也 保幼：コンセプトマップの活用法 小：学習問題(課題)と思考①：板書による提示</p> <p>第14回：飯田真也 学習問題(課題)と思考②：教師の「問い」と子どもの反応の受け止め</p> <p>第15回：飯田真也 学習問題(課題)と思考③：アクティブラーニングを支える指導の技とその構造</p>
アクティブラーニング	指導計画、教材研究と教材活用、情報メディアの活用、アクティブラーニングを視点とした学習等、実際の授業を想定した実技を行う。
授業内の ICT 活用	ICT を用いて教材作成を行う。
評価方法	授業への取り組み：20%

	小テスト：30% 課題提出物（振り返りレポート）：50%					
課題に対する フィードバック	指導計画・教材・模擬授業に対して、その都度フィードバックを行う。					
指定図書	必要に応じて資料として配布する					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
参考図書	必要に応じて授業で紹介					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	授業の中で次回の内容予告や課題を提示するので、様々な資料を用いて原則として、40分程度の事前・事後学習すること、また教材研究を十分に行い模擬授業・保育等の指導計画作成や準備をすること。					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	飯田 真也 (2712 研究室) メール: shinya-i@seirei.ac.jp 水曜日 12:00～13:00					
実務経験に関する記述	本科目は、幼稚園・小学校教諭・中学校教諭の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	生徒・進路指導論				
科目責任者	内崎 哲郎				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。				
科目概要	学校は子どもを育てる場であるが、正確には、子ども自ら育つように働きかける場である。そのために欠かせないことが生徒指導と進路指導であり、両指導とも教育課程の内外を通して行うものである。本授業では、いじめや不登校等の課題を切り口にしながらも、すべての子どもが「学校が楽しい」と実感でき、かつ、子どもたちの主体性や自己有用感を育むために必要な働きかけについて各自が考えていくことで、学校教育における生徒指導と進路指導の役割と意義を理解することを主目的とする。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育における生徒指導と進路指導の役割と意義について理解できる。 2. 子どもの主体性と自己有用感を育むために必要な視点を理解できる。 3. 生徒指導と進路指導はすべての教職員や家庭・地域等と連携をして行うことで効果が上がることを理解できる。 				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：生徒指導の意義と原理 第2回：教育課程と生徒指導 第3回：生徒指導体制と展開 第4回：小学校の生徒指導体制 第5回：児童理解 第6回：問題行動 第7回：いじめの対応 第8回：不登校の対応 第9回：生徒指導に関する法と制度 第10回：生徒指導の秘訣 第11回：進路指導の変遷 第12回：キャリア教育 第13回：小学校におけるキャリア教育 第14回：キャリア・カウンセリング 第15回：学校・家庭・地域と連携して取り組む生徒指導・進路指導</p>				
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・小グループや隣同士の話し合い（グループディスカッション・グループワーク） ・講義中心の授業であるが、レポートの作成を通して、表現志向で、思考力を活性化させるため、アクティブラーニングの3つの柱である「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を意識したレポートの課題を出す。 				
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進行は、プロジェクターや教材提示装置を活用して行う。 ・ビデオ映像を活用する。 				
評価方法	<p>60%：レポート（各回の授業内容について概要を把握し、それに対する自分なりの気付きや感想、考察等を書く。） 10%：授業、レポートへの取組姿勢 30%：定期試験（ルーブリックを用いて評価する。）</p>				
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の授業で出した課題について提出させたレポートの解説・コメントを、授業の始めに行う。 ・定期試験（生徒指導や進路指導の役割や意義について理解しているか、ルーブリックにしたがって評価する。） 				
指定図書	<ul style="list-style-type: none"> ・「小学校学習指導要領」 他は以下に記載します。 				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
生徒指導提要—令和4年12月—	文部科学省	東洋館出版社	900	9784491051758	

参考図書	「生徒リーフ」(国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター) 他は以下に記載します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
研修でつかえる生徒指導事例50	勝平教著	学事出版	1800	9784761922917	
小学校キャリア教育の手引き [改訂版]	.	教育出版	780	9.7843163003e+12	
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修では、前時の授業の最後に示した内容について、課題意識をもたせ、課題解決に向けて見通しをもって、自分自身の考え方をまとめる。(30分) ・事後学修では、授業内容について概要を把握し、それに対する自分なりの気付きや感想をレポートにまとめる。(60分) 				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	教育相談				
科目責任者	中村 洋子				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。				
科目概要	学校や幼児教育領域において教育相談やカウンセリングマインドの理解を深めることは、子どもの健全な育成にとって欠かせない領域である。この授業では、子どもの発達に即した教育相談の理論と相談援助の具体的事例をもとに実践力を育成する。また子どもや保護者への具体的な対応を学ぶ。				
到達目標	1. 教育相談の意義や基礎となる諸理論を理解する。 2. カウンセリングマインドなど教員としての基本的な姿勢、技法を学ぶ。 3. 子ども理解や保護者への対応の方法について理解する。				
授業計画	<p>授業計画 <授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション 現代の子育てをめぐる状況と教師に求められる役割 第2回：教育相談とは何か 教師の行う教育相談の役割と特徴 第3回：教育相談の理論 カウンセリングとカウンセリングマインドの考え方を理解する カウンセリングの基礎にある代表的な理論 第4回：相談援助の技術 ①カウンセリングマインドを活かす聴き方 第5回：相談援助の技術 ②カウンセリングマインドを活かす保護者との関係づくり 第6回：子ども理解 ①発達の視点から子どもを理解する 第7回：子ども理解 ②問題のアセスメント アセスメントの対象と方法 第8回：子ども理解 ③問題行動のとらえ方 第9回：いじめの問題への対応と現状 第10回：不登校への対応と現状 第11回：特別な支援を必要とする子どもへの対応 ①理解と支援の考え方の基本 第12回：特別な支援を必要とする子どもへの対応 ②支援の実際の基礎 第13回：障害を持つ子ども・気になる子どもの保護者への対応 第14回：「難しい保護者」・不適切な養育環境への対応 第15回：地域社会や関係機関との連携と協働</p>				
アクティブラーニング	実際の事例などを用いた教育相談支援についてディスカッションおよびグループ学習による演習を取り入れて実施します。講義中、発言を求めることがあります。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	筆記試験 (60%)、課題提出物 (30%)、授業への取り組み・発表 (10%) 計 100% (課題提出物については、講義終了後のリアクションペーパーの提出状況と内容などの全体から判断します)				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーの意見や問題提起を全員で共有しながら進めます。				
指定図書	以下に記載します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
教師のための教育相談	西本絹子	萌文書林	2000	9784893473172	
参考図書	『カウンセリングテクニック 2 「気にしたい子」「困っている子」と関わるカウンセリング』諸富祥彦. 金山健一. 佐々木肇子 (2022) ぎょうせい 『カウンセリングテクニック 3 特別支援と愛着の問題に生かすカウンセリング』諸富祥彦.				

	曾山和彦, 米澤好史 (2022) ぎょうせい 『カウンセリングテクニック 4 保護者とのよい関係を積極的に作るカウンセリング』 諸富祥彦, 黒沢幸子, 神村栄一 (2022) ぎょうせい				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	教科書を事前によく読んでおくこと。また授業の後にはノートを見直し質問を考えて次回の授業に臨むこと。事前・事後学習にはそれぞれ40分あててください。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は、「公認心理師」、「臨床心理士」の実務経験を有する講師が教育相談支援における実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	教育実習指導 (21SC・幼)
科目責任者	福重 浩之
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 5, 6, 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	幼稚園、小学校教諭への理解を深め、実習の意義や目的、内容、方法を知り、望ましい教育実習が行えるようにする。また、幼稚園、小学校教育の概要を学修し、教育実習に臨むための基礎的な知識・技術・態度を育む。事前指導では日誌・指導計画の書き方、模擬保育・模擬授業などに取り組み、事後指導ではそれぞれの体験を言語化し、共有し、さらに学びを深めていく。
到達目標	1. 教育実習の意義を理解しながら、実習に対する心構えを作る。 2. 実習日誌と指導計画の書き方を学び、実習時の観察視点を深める。 3. 実習体験をもとに実習成果や課題をまとめることができる。
授業計画	<p><担当教員名>福重浩之、鈴木光男、飯田真也、竹本石樹、太田雅子、渡邊拓真、杉山沙旺美</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>1. 事前指導として学内において講義や視聴覚学習等を用いた演習を行い、また実習校において見学・オリエンテーション等を行う。とりあげる内容は次の通りである。</p> <p>(1) 教育実習の意義・目的・内容の理解 (2) 教育実習の方法の理解 (3) 教育実習の心構えの理解。特に個人のプライバシーの保護と守秘義務、子どもの人権尊重についての理解。 (4) 教育実習課題の明確化 (5) 研究授業の準備、指導 (6) 実習記録の意義・方法の理解 (7) 実習施設の理解</p> <p>2. 実習終了後に、事後指導として実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化させ、教員志望学生の資質、能力の向上を図る。併せて、教育内容の理解と深化を図る。</p> <p><授業計画と担当者></p> <p>【事前指導】</p> <p>第1回 (杉山・渡邊)：オリエンテーション、事前訪問マナー、手続き等 第2回 (杉山・渡邊)：プレ実習と保育者の配慮点について (クリストファーこども園) 第3回 (渡邊)：クリストファーこども園におけるプレ実習 第4回 (渡邊)：3・4・5 歳児の発達の特徴 第5回 (杉山・渡邊)：指導計画について 第6回 (杉山)：実習日誌について 第7回 (太田・杉山)：実習課題・ルーブリックの作成 第8回 (太田・渡邊・杉山)：模擬保育① (計画) 第9回 (太田・渡邊・杉山)：模擬保育② (実践) 第10回 (太田・渡邊・杉山)：模擬保育③ (振り返り) 第11回 (全員)：実習直前指導</p> <p>【事後指導】</p> <p>第12回 (杉山・渡邊)：実習の振り返り (幼稚園教諭の役割) 第13回 (杉山・渡邊)：実習の振り返り (グループディスカッション) 第14回 (全員)：3 年生に向けての実習報告会① 第15回 (全員)：3 年生に向けての実習報告会②・まとめ</p>
アクティブラーニング	模擬授業を構想し、指導案を作成し、模擬授業を公開した上で成果や課題について全員で研究・協議する。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	課題 (20%)、授業への取り組み (20%)、レポート (20%)、

	実習報告会 (20%)、模擬授業の教材研究・指導案 (20%) 計 100% レポートの指導・評価にルーブリックを用いる。				
課題に対する フィードバック	記録や課題については、添削のうえ返却をする。また、実習報告会では、教員からの講評をする。				
指定図書	下記参照。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
幼保連携型認定こども園教育・保育 要領解説 平成30年3月	内閣府／〔著〕 文部 科学省／〔著〕 厚生 労働省／〔著〕	フレーベル館	350	9784577814499	
幼稚園教育要領解説 平成30年 3月		フレーベル館	240	9.7845778145e+12	
参考図書	なし。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<p>【事前学修】 (60分) 実習が始まる前に実習ノートにオリエンテーション内容や実習園／実習校の教育目標・研修テーマなど概略を記し、配当学年で必要となる教材研究の資料を収集する。</p> <p>【事後学修】 (60分) 実習先と同じ評価表を用い、手引きに記載された内容に基づき自己評価をする。実習ノート、実習先からの評価表を基に巡回教員と面談を行い、実習を振り返り、自己課題を見出す。</p>				
オープンエデュケーション の活用	なし				
オフィスアワー	福重 浩之 (2607 研究室)、鈴木 光男 (1613 研究室)、飯田 真也 (2712 研究室)、竹本 石樹、 杉山沙旺美 (2609 研究室)、太田 雅子 (5707 研究室)、渡邊拓真 時間については初回授業時に提示する。				
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園教諭」「保育士」「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業 の実施について	なし				

科目名	教育実習指導 (22SC・小)
科目責任者	福重 浩之
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 5・6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	小学校教諭への理解を深め、実習の意義や目的、内容、方法を知り、望ましい教育実習が行えるようにする。また、小学校教育の概要を学修し、教育実習に臨むための基礎的な知識・技術・態度を育む。事前指導では ICT を活用した授業の在り方、日常的な授業を行うなどして実践力を培う。事後指導ではそれぞれの体験を言語化し、共有し、さらに学びを深めていく。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の意義を理解しながら、実習日誌と指導計画の書き方を学び、実習時の観察視点を深める。 2. 教育実習生として学校の教育活動に参画する心構えを形成し、教育実習および教員免許取得までに習得すべき知識や技能を理解する。教育現場において教員に求められる実践および実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。 3. 教育実習時の成果や課題をまとめることができる。
授業計画	<p><担当教員名>福重浩之、鈴木光男、飯田真也、竹本石樹 <授業内容・テーマ等></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前指導として学内において講義や視聴覚学習等を用いた演習を行い、また実習校において見学・オリエンテーション等を行う。とりあげる内容は次の通りである。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育実習の意義・目的・内容の理解 (2) 教育実習の方法の理解 (3) 教育実習の心構えの理解。特に個人のプライバシーの保護と守秘義務、子供の人権尊重についての理解。 (4) 教育実習課題の明確化 (5) 研究授業の準備、指導 (6) 実習記録の意義・方法の理解 (7) 実習施設の理解 2. 実習終了後に、事後指導として実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化させ、教員志望学生の資質、能力の向上を図る。併せて、教育内容の理解と深化を図る。 (事前指導) <p>第1回 オリエンテーション(1)～(3) 第2回 実習校の教育目標、研究テーマ、特長等への理解 第3回 教育実習に向けてⅠ 第4回 教育実習に向けてⅡ 第5回 学びを支える手立てとしての ICT 活用 第6回 ICT を活用した授業 第7回 ICT 活用を踏まえた指導案作成 (国語科・算数科) 第8回 指導案作成 第9回 指導案分析 第10回 模擬授業 第11回 生徒指導と学級経営 第12回 教育実習課題の明確化 (事後指導) 第13回 ふりかえり (面接) 第14回 第15回 報告会</p>
アクティブラーニング	模擬授業を構想し、指導案を作成し、模擬授業を公開した上で成果や課題について全員で研究・協議する。
授業内の ICT	なし

活用						
評価方法	授業への取り組み (25%)、レポート (25%)、 実習報告会 (25%)、模擬授業の教材研究・指導案 (25%) 計 100% レポートの指導・評価にルーブリックを用いる。					
課題に対する フィードバック	記録や課題については、添削のうえ返却をする。また、実習報告会では、教員からの講評をする。					
指定図書						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
小学校学習指導要領 (平成29年告示)	文部科学省	東洋館出版社	201	9784491034607		
参考図書	特になし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	<p>【事前学修】 実習が始まる前に実習ノートにオリエンテーション内容や実習校の教育目標・研修テーマなど概略を記し、配当学年で必要となる教材研究の資料を収集する (60分)。</p> <p>【事後学修】 実習先と同じ評価表を用い、手引きに記載された内容に基づき自己評価をする。 実習ノート、実習先からの評価表を基に巡回教員と面談を行い、実習を振り返り、自己課題を見出す (60分)。</p>					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	福重 浩之 (2607 研究室) 時間については初回授業時に提示する。 鈴木 光男 (1613 研究室) 飯田 真也 (2712 研究室) 竹本 石樹					
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	教育実習（幼・小）（21SC・幼）				
科目責任者	福重 浩之				
単位数他	4 単位（120 時間） 選択 5, 7 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP5 専門				
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。				
科目概要	幼稚園・認定こども園または小学校インターンシップⅠⅡⅢで実習した小学校で、4 週間の実習を行う。実習の主な内容は、幼稚園、①見学・観察、②保育参加・補助、③部分実習、④全日実習を体験する。小学校では、①見学・観察、②教育参加・補助、③教科等学習指導（授業研究を含む。国語・算数・理科・社会・生活・道徳は必ず、その他の音楽・図工・体育・家庭・総合的な学習の時間・英語（外国語活動）などはその中から 1～2 時間程度は担当する）、④全日指導。小学校インターンシップⅠⅡⅢから連続するため、本科目では③④が中心となる。				
到達目標	1. 幼稚園、小学校教諭の仕事全般を理解し、その補助ができる。 2. 園児、児童とのかかわりや観察を通して、児童の思いや願い、発達や個性を理解し、記録できる。 3. 園児、児童の実態に即した指導案（略案・細案）を立て、実践・評価できる。				
授業計画	<担当教員名> 福重浩之、鈴木光男、飯田真也、竹本石樹、太田雅子、渡邊拓真、杉山沙旺美 <授業内容・テーマ等> 教育実習の主な内容（段階）は、①見学・観察、②保育・教育参加・補助、③部分実習／部分指導、④全日実習／全日指導を体験する。この実習では幼稚園、小学校における教育の実際を体験することにより、園児、児童に対する理解を深めるとともに、教育の理論と実践の関係を具体的に理解し、習得した知識・技能を総合的に実践しうる能力と教育者にふさわしい態度を身につけることを目的とする。				
アクティブラーニング	実習科目				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	実習校からの評価（40%） 実習日誌・指導案等（30%） 学生と教員との面談における振り返り（30%） 計 100% ルーブリックを用いて評価する。評価方法については、授業時に提示する。				
課題に対するフィードバック	実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行う。				
指定図書	下記参照。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
幼稚園教育要領解説 平成30年3月		フレーベル館	240	9784577814475	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月	内閣府／〔著〕 文部科学省／〔著〕 厚生労働省／〔著〕	フレーベル館	350	9.7845778145e+12	
参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

事前・事後学修	<p>【事前学修】 各学年の子どもの発達を理解、実践にあたっての教材研究を行う。また、指導計画案／学習指導案は園児、児童の実態を捉え、十分な教材研究のもと作成する。授業研究は細案、その他は本時の学習に関する目標や学習過程のみの略案（60分）。</p> <p>【事後学修】 実習終了後は、幼稚園、小学校教諭の仕事・授業の進め方や園児、児童との関わりについて実習ノートを書き、翌日の課題を明らかにする（60分）。</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	福重浩之（2607 研究室） メール：hirokyu-f@seirei.ac.jp 杉山沙旺美（2609 研究室） メール：saomi-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「保育士」「幼稚園教諭」「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	教育実習 (幼・小) (22SC・小)				
科目責任者	福重 浩之				
単位数他	4 単位 (120 時間) 選択 5 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP5 専門				
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。				
科目概要	小学校インターンシップ I II で実習した小学校で、3 週間の実習を行う。実習の主な内容は、①見学・観察、②教育参加・補助、③教科等学習指導 (授業研究を含む。国語・算数・理科・社会・生活・道徳は必ず、その他の音楽・図工・体育・家庭・総合的な学習の時間・英語 (外国語活動) などはその中から 1~2 時間程度は担当する)、④全日指導。小学校インターンシップ I II から連続するため、本科目では③④が中心となる。				
到達目標	1. 小学校教諭の仕事全般を理解し、その補助ができる。 2. 児童とのかかわりや観察を通して、児童の思いや願い、発達や個性を理解し、記録できる。 3. 児童の実態に即した指導案 (略案・細案) を立て、実践・評価できる。				
授業計画	<担当教員名> 福重浩之、鈴木光男、飯田真也、竹本石樹 <授業内容・テーマ等> 教育実習の主な内容 (段階) は、①見学・観察、②教育参加・補助、③部分指導、④全日指導を体験する。この実習では小学校における教育の実際を体験することにより、児童に対する理解を深めるとともに、教育の理論と実践の関係を具体的に理解し、習得した知識・技能を総合的に実践しうる能力と教育者にふさわしい態度を身につけることを目的とする。				
アクティブラーニング	実習科目				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	実習校からの評価 (40%) 実習日誌・指導案等 (30%) 学生と教員との面談における振り返り (30%) 計 100% ルーブリックを用いて評価する。評価方法については、授業時に提示する。				
課題に対するフィードバック	実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行う。				
指定図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
小学校学習指導要領 (平成 29 年告示)	文部科学省	東洋館出版社	201	9784491034607	
参考図書	特になし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
事前・事後学修	【事前学修】 各学年の子供の発達の理解、実践にあたっての教材研究を行う。また、学習指導案は児童の実態を捉え、十分な教材研究のもと作成する。授業研究は細案、その他は本時の学習に				

	<p>関する目標や学習過程のみの略案 (60 分)。</p> <p>【事後学修】</p> <p>実習終了後は、小学校教諭の仕事・授業の進め方や児童との関わりについて実習ノートを書き、翌日の課題を明らかにする (60 分)。</p>
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	福重 浩之 (2607 研究室) メール: hiroyuki-f@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	教職実践演習（幼・小）
科目責任者	鈴木 光男
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門基礎
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	<p>授業は大きく2つに分けることができる。</p> <p>第1は、大学における演習である。児童理解、学級経営、教科・領域指導等に関する内容を取り上げ、事例研究、ロール・プレイ、模擬授業等を行うことによって、実践的な能力を確かなものにしていくことを目的とする。</p> <p>第2は、教育現場、関連機関における演習である。教育に対する使命感、責任感についての認識を深めるとともに、子どもとのコミュニケーション能力に加え、社会人としての対人関係能力をはぐくんでいくことを目的とする。</p>
到達目標	<p>大学の授業で学んだ学校知と教育実習等で得られた実践知とのさらなる統合を図り、使命感や責任感に裏打ちされた確かな実践的指導力を有する教員として資質を構築していく。教師として必要な基礎的資質の形成に関して、以下の4項目について確認する。</p> <p>①教育に対する使命感や責任感をもち、子どもに対する愛情が豊かであること</p> <p>②社会性や対人関係、コミュニケーションの能力が適切であること</p> <p>③幼児・児童理解や学級経営等に関する必要な能力の基礎を身に付けていること</p> <p>④領域・教科等の指導力の基礎を形成していること</p>
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>鈴木、飯田、福重、竹本、渡邊</p> <p>*学修進度やその時々保育・教育動向などを踏まえて柔軟に学修内容を変更したり、授業の順番を入れ替えたりする。その場合は、事前に連絡する。</p> <p>第1回 グループ討論「理想とする教師像・子供像」、全体発表：鈴木／渡邊</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WebClass 教職カルテに基づくここまでの学修・実習のふり振り返り ・令和の日本型教育やこれからの保育・教育について検討・意見交換 <p>第2回 ICT を採り入れた保育・教育実践事例の検討と意見交換（授業・保育における技の実際）：竹本・鈴木／渡邊</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT を採り入れた新たな授業・保育構想 <p>第3回 研究授業・責任実習 模擬授業発表合評会：鈴木・飯田・福重・竹本／渡邊</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな授業・保育構想による模擬授業・模擬保育の発表合評会 ・板書の練習（チョークの持ち方・書き方・使い方等） ・電子黒板等 ICT の活用 <p>第4回 演習（小）「板書指導・ノート指導のコツ」（幼）「子供理解のコツ」：福重／渡邊</p> <p>第5回 講義「子供の主体性を育むかわり方」：鈴木</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーチングスキルの体験的实践を交えたコーチングの理解 <p>第6回 講義「教師の仕事と心得」：飯田</p> <p>第7回 講義（浜松市元校長・園長ゲストスピーカー）「幼稚園と小学校の教育」：鈴木／渡邊</p> <p>第8・9回 教育者としての感性①②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（幼）こども園やたっくんでの実践：渡邊 ・（小）IB教育の探究的な実践の検討：鈴木 <p>第10回 コミュニティスクールの実践：鈴木</p> <p>第11回 講義とグループ討論「持続可能な社会の創り手を育成する教育」：鈴木／渡邊</p> <ul style="list-style-type: none"> ・society5.0 やSDGs・ESD など今日的な課題を踏まえた教育の検討 <p>第12回 特別支援学校の授業参観（交流）：鈴木／渡邊</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別（発達）支援教育の理解 <p>第13回 特別支援学校の教育概要の説明：鈴木／渡邊</p> <p>第14回 特別支援学校の授業や保育の参観（事後研修）：鈴木／渡邊</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校参観訪問を通じた学びの共有 <p>第15回 まとめ—教師になることへの期待と希望：鈴木・飯田・福重・竹本／渡邊</p>

アクティブラーニング	グループでのディスカッション・実践現場の観察を通じた課題把握と模擬授業の教材研究					
授業内の ICT 活用	電子黒板等 ICT の活用やミライシードなどを使った授業実践事例に学び、基本的な扱いを理解する。					
評価方法	学習への積極性・参加態度など：30% リアクションペーパーや授業・保育構想などの課題：40% 最終レポート：30% 以上を目安に総合的に評価する。					
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパーをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。(学修の目安時間は40分)					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	鈴木 光男 (1613 研究室) メール:mitsuo-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教員」「幼稚園教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	理科指導法				
科目責任者	竹本 石樹				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP5 専門				
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。				
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・講義やグループワークを通して、授業実践の基礎基本（マクロ的視点、ミクロ的視点）を整理する。 ・授業実践の基礎基本（マクロ的視点、ミクロ的視点）を活用し、3～4人のグループで、学習指導案や板書計画を作成し、教材、教具等を準備し模擬授業を行う。 ・模擬授業後には、全体で授業リフレクションを行う。参加者は、模擬授業に対するコメント（優れている点、課題となる点や改善策等）を記述し、発表する。授業者は、コメントを参考にした改善学習指導案、改善板書計画を作成し、提出する。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の論理（目標、内容、評価等）と子どもの論理（資質・能力、見方・考え方、自然認識等）が調和したカリキュラム設計、授業設計、学習評価計画を行い、学習指導案を作成することができる。【マクロ的視点】 ・子供の学びを深めたり広げたりする指導技術（発問、板書、教材提示、情報機器及び教材の活用等）を学習指導案へ取り入れることができる。【ミクロ的視点】 ・模擬授業を行い、授業リフレクションを通して授業改善の視点を身に付け、自主・自律的な授業改善に結び付けることができる。 				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：「理科」授業を活かした「理科指導法」</p> <p>第2回：理科授業におけるマクロ的視点の理解①</p> <p>第3回：理科授業におけるマクロ的視点の理解②</p> <p>第4回：理科授業におけるミクロ的視点の理解①</p> <p>第5回：理科授業におけるミクロ的視点の理解② *情報機器及び教材の活用</p> <p>第6回：模擬授業計画（学習指導案作成、板書計画作成、背景となる学問領域の理解）</p> <p>第7回：模擬授業とリフレクション①：小学校3年生の内容：A区分</p> <p>第8回：模擬授業とリフレクション②：小学校3年生の内容：B区分</p> <p>第9回：模擬授業とリフレクション③：小学校4年生の内容：A区分</p> <p>第10回：模擬授業とリフレクション④：小学校4年生の内容：B区分</p> <p>第11回：模擬授業とリフレクション⑤：小学校5年生の内容：A区分</p> <p>第12回：模擬授業とリフレクション⑥：小学校5年生の内容：B区分</p> <p>第13回：模擬授業とリフレクション⑦：小学校6年生の内容：A区分</p> <p>第14回：模擬授業とリフレクション⑧：小学校6年生の内容：B区分</p> <p>第15回：総括（改善学習指導案の検討、改善板書計画の検討）</p>				
アクティブラーニング	模擬授業、ディスカッション、グループワーク、リフレクションを融合させて行う。				
授業内の ICT 活用	Google for Education 系アプリ、デジタル教科書、実物投影機、プレゼンテーションソフト等を効果的に活用する。				
評価方法	模擬授業コメント 30%、改善指導案（板書計画を含む） 40%、授業の取組 30%				
課題に対するフィードバック	模擬授業のための学習指導案や模擬授業の発表をもとにフィードバックする。				
指定図書	「小学校学習指導要領解説理科編」（文部科学省）				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考図書	適宜プリント等を配布する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	学習指導案の作成と模擬授業コメントの記述、改善指導案の作成等（事前・事後学習） 記述による学習記録（事後学修）（目安時間1時間）				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問には、授業時に直接、もしくは研究室訪問にてお答えします。				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	生活科指導法				
科目責任者	飯田 真也				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP5 専門				
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。				
科目概要	生活科の目標、内容、全体構造を理解し、教材分析、授業設計の方法について学ぶ。そのうえで、幼小接続を視点としたり、教科書研究を基にしたりした学習指導案を作成する。作成した学習指導案に基づき、模擬授業の実施及び授業検討会を行うことで、生活科の授業を担当するための指導力を身につける。				
到達目標	学習指導に必要な知識や技能を身につける。 学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。 模擬授業の振り返りを通じて授業改善を行うことができる。				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：スタートカリキュラムとしての生活科の意義：幼小接続の課題</p> <p>第2回：幼児教育と小学校教育の特徴：幼小接続カリキュラムを構想する視点</p> <p>第3回：幼小接続単元構想</p> <p>第4回：幼小接続単元構想に基づく学習指導案の検討・作成</p> <p>第5回：幼小接続単元の実際：「学校生活」の模擬授業（協議・改善点検討）</p> <p>第6回：幼小接続単元の実際：「生活や出来事」の模擬授業（協議・改善点検討）</p> <p>第7回：幼小接続単元の実際：「地域生活」の模擬授業（協議・改善点検討）</p> <p>第8回：幼小接続単元の実際：「公共施設の利用」の模擬授業（協議・改善点検討）</p> <p>第9回：幼小接続単元の実際：「飼育・栽培」の模擬授業（協議・改善点検討）</p> <p>第10回：接続単元の実際：他教科横断の模擬授業（協議・改善点検討）</p> <p>第11回：接続単元の実際：他領域横断の模擬授業（協議・改善点検討）</p> <p>第12回：ICTを含めた教材開発の実際</p> <p>第13回：教科書研究に基づいた単元構想・指導案立案</p> <p>第14回：教科書研究に基づいた単元構想の実際①：協議と修正案作成</p> <p>第15回：教科書研究に基づいた単元構想の実際②：協議と修正案作成</p>				
アクティブラーニング	現場実践の動画による検討や考察、協議 グループ等による模擬授業の立案と発表、協議				
授業内の ICT 活用	WebClass の活用				
評価方法	<p>次の評価項目を得点化して評定します。</p> <p>出席点：30－欠席数×6 ※欠席数は授業前後調査参加度による</p> <p>幼小接続単元指導案及び授業：30</p> <p>個人単元構想指導案及び協議：20</p> <p>授業振り返り：10</p> <p>模擬授業の質：10</p> <p>※合計 60 点に達していても、(模擬) 授業として未達の場合は、特別再試験を実施します。</p>				
課題に対するフィードバック	模擬授業のための指導案や模擬授業の発表をもとにフィードバックする。				
指定図書	『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）生活編』・文部科学省・東洋館出版社				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	必要に応じて授業で紹介				

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	指導案の作成と模擬授業の準備、修正案作成（事前・事後学習） 記述による学習記録（事後学修）（指導案関係：目安時間1時間/週） 課題レポート：8時間程度				
オープンエデュケーションの活用	実際の小学校現場での学習であるインターンシップ等との接続				
オフィスアワー	飯田 真也（2712 研究室） メール：shinya-i@seirei.ac.jp 水曜日 12:00～13:30（第2水曜日を除く）				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	音楽科指導法
科目責任者	二宮 貴之
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	小学校音楽科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された小学校音楽科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
到達目標	1) 学習指導に必要な知識や指導力を身につける。 2) 学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。 3) 模擬授業の振り返りを通じて授業改善を行うことができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：授業づくりの基礎1 学習指導要領を基に「教育内容」「教材」「評価」などを整理する。</p> <p>第2回：授業づくりの基礎2 学習指導要領を基に「音楽の要素」「ICT」「指導の留意点」などを整理する。</p> <p>第3回：音楽遊び 音楽遊びとその展開について実践を通して理解する。</p> <p>第4回：弾き歌いの授業 第1～3 学年の歌唱共通教材を取り上げ弾き歌いについて理解する。</p> <p>第5回：弾き歌いの授業 第4～6 学年の歌唱共通教材を取り上げ弾き歌いについて理解する。</p> <p>第6回：合唱の授業 合唱教材を取り上げその指導方法について理解する</p> <p>第7回：合唱の授業 合唱曲を仕上げその指導方法と評価方法について理解する。</p> <p>第8回：器楽の授業 鍵盤ハーモニカを教材で取り上げ基本的な奏法と指導法について理解する。</p> <p>第9回：器楽の授業 打楽器、鍵盤楽器等用いて合奏を行いその指導法について理解する。</p> <p>第10回：音楽鑑賞の授業 小学校の鑑賞教材を取り上げその指導法について理解する。</p> <p>第11回：音楽づくりの授業 音楽づくりを経験しその指導法について理解する。</p> <p>第12回：学習指導案の作成 学習指導要領を基に単元計画と指導案の作成について理解する。</p> <p>第13回：学習指導案の作成 指導案を作成しその作成方法について理解する。</p> <p>第14回：模擬授業 作成した指導案を基に模擬授業を実践し、指導法全体を理解する。</p> <p>第15回：模擬授業 作成した指導案を基に模擬授業を実践し、指導法全体を振り返る。</p> <p>定期試験</p>
アクティブラーニング	個人及びグループで主体的に学修する時間を設定しています。 音楽鑑賞や演奏に対してグループや個人で意見交換する場を設け、聴いた「音楽や音」からどのようなことを感じたのかを表出し合い学びを深めます。
授業内の ICT 活用	動画の視聴を通して演奏技術向上に向けた ICT 活用による学修を展開する。 また、他国の教育法についても動画を通して学修する。
評価方法	指導案の評価 30% 共通教材の弾き歌い 30% 定期試験 40% (レポート)
課題に対する	指導案の作成、弾き歌いや歌唱表現について課題ごとに講評します。

フィードバック					
指定図書	下記を指定図書とします。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
【改訂版】最新初等科音楽教育法 小学校教員養成課程用	初等科音楽教育研究会 ／編	音楽之友社	2000	9784276821026	
参考図書	参考図書・資料については適宜紹介・配布します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	指定図書を読み、音楽科の指導方法・理論、各楽曲の譜読みを事前に行っておいて下さい。 事前・事後学修はそれぞれ1時間程度行って下さい。				
オープンエデュケーションの活用	小学校の児童が演奏する器楽や合奏に関する動画を視聴し鑑賞教育を実施します。				
オフィスアワー	二宮 貴之 (2602 研究室) メール: takayuki-n@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	図画工作科指導法
科目責任者	鈴木 光男
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	図画工作科の「目標」「指導内容」「指導方法」「評価」を、子供の成長と表現・製作の発達といった観点から、また“Education through Art (美術による教育)”と“Education for Art (美術の教育)”の観点や、美術教育の歴史の変遷などからとらえ直し、この教科特有の意味や価値について認識を深める。その上で、具体的な題材や授業を構想する力、子供の自発的・主体的な学習を保障しながら授業を展開する力など、図画工作科に関する理論的・実践的力量的の形成をはかるものとする。小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 美術教育の歴史の変遷と今日的な課題について理解する。 2. 図画工作科の教育的意味や価値について理解し、題材や授業を構想し、作品を試作し指導案を作成することができるようになる。 3. 様々な表現方法に応じた子供の表現のあり方を理解し、子供の表現活動について理解することができるようになる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>美術教育の理念と課題</p> <p>第1回：美術教育の目標／美術教育の変遷—その理念と思想— ・図画工作科学習の課題と意義を考察・検討する。</p> <p>第2回：子供の成長と表現 ・明治期の臨画教育や「〇〇式」と言われる描画指導など美術教育における様々な指導法の検討から新学習指導要領で求める図画工作科のあり方を検討・考察する。</p> <p>第3回：図画工作科の性格と目標・評価 / 図画工作科の学習指導の基本 ・図画工作科で育む学力と自発的・主体的な学習者を育てるための教師のあり方を考察・検討する。</p> <p>第4回：図画工作科の指導内容と指導の実際—指導計画や評価も含めて—① ・造形遊びについて理解し、その内容と指導の要諦を実際の題材を通して考察・検討する。</p> <p>第5回：図画工作科の指導内容と指導の実際—指導計画や評価も含めて—② ・表したいことを絵に表す題材を楽しむことを通して、その内容と指導の要諦を実際の題材を通して考察・検討する。</p> <p>第6回：図画工作科の指導内容と指導の実際—指導計画や評価も含めて—③ ・表したいことを立体に表す題材を楽しむことを通して、その内容と指導の要諦を実際の題材を通して考察・検討する。</p> <p>第7回：図画工作科の指導内容と指導の実際—指導計画や評価も含めて—④ ・表したいことを工作に表す題材を楽しむことを通して、その内容と指導の要諦を実際の題材を通して考察・検討する。</p> <p>第8回：図画工作科の指導内容と指導の実際—指導計画や評価も含めて—⑤ ・浜松市美術館等と連携・協力した鑑賞のあり方や対話型鑑賞・アートゲームなどの実践的な題材や ICT を活用した指導の実例を通じて、その内容と指導の要諦を実際の題材を通して考察・検討する。</p> <p>授業づくり</p> <p>第9回：学習指導案の作成① ・学習指導案の全体的な書式をはじめ目標や評価規準、児童観・題材観・指導観などについてそれぞれに記入するポイントを理解する。</p> <p>第10回：学習指導案の作成② ・試作することを通して学習過程を構想し、導入の工夫や ICT の効果的な利用による意欲化の手立てを考える。</p> <p>第11回：指導案の作成③</p>

	<p>・各自作成した学習指導案をもとにしてした模擬授業を構想し、その準備を進める。</p> <p>第12回：模擬授業の公開・検討①</p> <p>・各自の学習指導案をもとに模擬授業を公開し、それぞれ評価し合い、研究・協議する。</p> <p>第13回：模擬授業の公開・検討②</p> <p>・前時の学びを互いに振り返り、課題を絞って模擬授業を公開し、それぞれ評価し合い、研究・協議する。</p> <p>第14回：模擬授業の公開・検討③</p> <p>・これまでの学びを総括するように模擬授業を公開し、それぞれ評価し合い、研究・協議する。</p> <p>第15回：まとめと振り返り</p> <p>・図画工作科学習による主体的・対話的で深い学びを検討し、協議することで、本科目の総括をする。</p> <p>定期試験は実施しない。</p>				
アクティブラーニング	<p>グループでのディスカッション・実践現場の観察を通じた課題把握と模擬授業の教材研究・模擬授業の公開</p> <p>小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。</p>				
授業内の ICT 活用	<p>Web 動画の視聴をしたり、各教科書会社のデジタル教科書や指導資料を活用したりする。</p> <p>また、模擬授業で ICT を活用した授業実践に取り組んだりする。</p>				
評価方法	<p>(1) 授業で課した課題の評価…40%</p> <p>*試験はなく、学習指導案と試作した作品、並びに模擬授業に関する課題レポートを課す。</p> <p>(2) 授業態度（事前・事後学修の提出物、参加態度など）…60%</p> <p>*毎時間の作品の制作態度や事前・事後学修をまとめたスケッチブックなども評価材料とし、総合的に判断し評価する。</p>				
課題に対するフィードバック	<p>各回に記入したリアクションペーパーをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。</p> <p>レポートはループリックを用いて評価する。ループリックの内容は授業中に提示する。</p>				
指定図書	<p>大橋功・鈴木光男他編著「美術教育概論（新訂版）」日本文教出版</p>				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	「小学校学習指導要領」（文部科学省）				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。（学修の目安時間は40分）				
オープンエデュケーションの活用	<p>・自主学習として、以下の URL の番組の受講を勧めます。</p> <p>NHK「キミなら何つくる？」</p> <p>https://www.nhk.or.jp/zukou/kiminara/?das_id=D0005210001_00000</p>				
オフィスアワー	鈴木 光男（1613 研究室） メール：mitsuo-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	家庭科指導法				
科目責任者	小清水 貴子				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP5 専門				
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。				
科目概要	学習指導要領等を通して、小学校家庭科の教科目標、指導内容と評価、情報機器及び教材の効果的な活用を含めた指導法について学びます。学習指導案の作成、情報機器を活用した模擬授業の実施と振り返りを通して、子どもの認識や思考等の実態を視野に入れた授業設計や授業改善の視点を身につけます。				
到達目標	学習指導要領に示された小学校家庭科の教育目標や指導内容、指導方法について理解するとともに、情報機器を活用して具体的な授業場面を想定して授業設計を行う力を身につけます。				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：小学校家庭科の教科目標、指導内容と授業設計のポイント</p> <p>第2回：「A家族・家庭生活」の指導内容と授業設計</p> <p>第3回：「A家族・家庭生活」の模擬授業の実践と振り返り、授業改善</p> <p>第4回：「A家族・家庭生活」の情報機器及び教材の効果的な活用法</p> <p>第5回：「B衣食住の生活」の食生活の指導内容と授業設計</p> <p>第6回：「B衣食住の生活」の食生活の模擬授業の実践と振り返り、授業改善</p> <p>第7回：「B衣食住の生活」の食生活の情報機器及び教材の効果的な活用法</p> <p>第8回：「B衣食住の生活」の衣・住生活の指導内容と授業設計</p> <p>第9回：「B衣食住の生活」の衣・住生活の模擬授業の実践と振り返り、授業改善</p> <p>第10回：「B衣食住の生活」の衣・住生活の情報機器及び教材の効果的な活用法</p> <p>第11回：「C消費生活と環境」の指導内容と授業設計</p> <p>第12回：「C消費生活と環境」の模擬授業の実践と振り返り、授業改善</p> <p>第13回：「C消費生活と環境」の情報機器及び教材の効果的な活用法</p> <p>第14回：小学校家庭科の学習評価</p> <p>第15回：まとめ</p>				
アクティブラーニング	事前学習課題，グループワーク，模擬授業，対話・討議を行います。				
授業内の ICT 活用	情報機器を活用した授業設計および模擬授業を行います。				
評価方法	課題レポート (60%)，毎回の演習および授業の最後に提出する小レポート (40%) 演習・レポートで評価するが，ルーブリックは用いない。				
課題に対するフィードバック	レポートに対するコメントおよび解説をします。				
指定図書	以下に記載します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
小学校学習指導要領解説 家庭編 (平成29年告示)	文部科学省	東洋館出版社	95	9784491034669	
【新版】授業力UP家庭科の授業	伊藤葉子／編著	日本標準	2000	9.7848208065e+12	
参考図書	授業において適宜資料を配布します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

事前・事後学修	毎回の授業で本時のまとめと次時の予告をします。授業内容について復習するとともに、次時の事前課題に取り組んでください。
オープンエデュケーションの活用	自主学習として、以下のURLの番組の視聴路を進めます。 NHK for School カテイカ https://www.nhk.or.jp/katei/kateika/
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「家庭科教員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	体育科指導法				
科目責任者	和久田 佳代				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP5 専門				
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。				
科目概要	新学習指導要領に基づく体育科の目標・内容、全体構造を理解し、望ましい体育授業のあり方を探求する。 実際に学習指導案を作成し、模擬授業や場面指導を実践し、指導方法を身につける。				
到達目標	小学校体育科の目標・内容を理解し、学習指導案を作成することができる。 現代社会の児童にあった体育科のあり方を考察できる。				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション 体育について考える 第2回：現代の子供の体力・運動能力と健康 小学校体育科の目標と内容 第3回：体育科における主体的・対話的で深い学び 第4回：体育科における評価の在り方 学びと指導と一体となった評価 第5回：授業設計と学習指導案の作成 第6回：領域別指導法① 体づくりの運動遊び、体づくり運動 第7回：領域別指導法② 器械・器具を使つての運動遊び、器械運動 第8回：領域別指導法③ 走・跳の運動遊び、走・跳の運動、陸上運動 第9回：領域別指導法④ 水遊び、水泳運動 第10回：領域別指導法⑤ ゲーム、ボール運動（ゴール型） 第11回：領域別指導法⑥ ゲーム、ボール運動（ネット型、ベースボール型） 第12回：領域別指導法⑦ 表現リズム遊び、表現運動 第13回：領域別指導法⑧ 保健 第14回：模擬授業 学習指導案の評価と修正 ICT の効果的な活用 運動が苦手な児童への指導の工夫・配慮 第15回：学習指導要領の理解（確認）と授業設計（まとめ） 確認テスト</p> <p>*実技の際は、運動着、体育館シューズを用意してください。</p>				
アクティブラーニング	○実技、演習○グループワーク ○ディスカッション				
授業内の ICT 活用	浜松市の小学校現場で活用されている Google Classroom を活用します。 確認テスト等には WebClass を活用します。				
評価方法	模擬授業 30% 毎回の活動と授業後のフィードバック 30% 確認テスト 40%				
課題に対するフィードバック	授業内でそのつどフィードバックします。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
小学校学習指導要領解説 体育編 (平成29年告示)	文部科学省	東洋館出版社	312	9784491034676	
参考図書	文部科学省『「生きる力」を育む小学校保健教育の手引き』 白旗和也「体育指導超入門」明治図書 下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校体育	国立教育政策研究所教育課程研究センター	東洋館出版社	1000	9784491041285	
事前・事後学修	指定図書に関連する部分を予習・復習する。(目安時間 40 分) 指導の計画、準備、評価を行う。				
オープンエデュケーションの活用	文部科学省>学校体育の充実>指導資料集 https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1330884.htm 小学校体育(運動領域)まるわかりハンドブック 学校体育実技指導資料第4集「水泳指導の手引(三訂版)」 学校体育実技指導資料第9集「表現運動系及びダンス指導の手引」 学校体育実技指導資料第8集「ゲーム及びボール運動」 学校体育実技指導資料第7集「体づくり運動」(改訂版) 学校体育実技指導資料第10集「器械運動指				
オフィスアワー	和久田 佳代(2709 研究室) メール:kayo-w@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「公認中級パラスポーツ指導員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	英語指導法
科目責任者	池田 周
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	子どもの言語習得論や学びの特性、諸外国の小学校外国語教育の実際、日本の小学校への英語教育導入の背景と目的、年間指導計画と1時間の授業展開など、小学校外国語活動・外国語科の指導に必要な基礎的理論を学ぶ。さらに ICT も積極的に活用しながら様々な言語活動を体験し、教材研究や模擬授業を通して実践的指導力を養成する。
到達目標	1. 児童の言語習得能力や発達段階、第一言語習得と第二言語習得の違いなどに関する理論的基盤を構築する。 2. 小学校外国語教育の意義と指導の特性を理解し、授業を展開するために必要な理論と指導技術を習得する。 3. 学習指導要領に基づく小学校外国語教育の目標と育成すべき資質・能力の理解に基づき、具体的な指導と評価の計画を立てる力を身に付ける。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション：小学校での英語教育実践に必要な知識・理解 第2回：第二言語習得理論と外国語教育実践 第3回：小学校外国語教育導入の背景・その目的と意義・特徴、学習指導要領 第4回：コミュニケーション能力・国際理解教育 第5回：年間指導計画・単元の指導と評価の計画の立て方、ALT とのティームティーチング 第6回：小学校外国語教育の評価 第7回：小学校外国語教育の教材・教具、指導法、音声言語から文字言語へ 第8回：教材研究1〔歌・チャンツ〕・Classroom English 1〔授業運営〕 第9回：教材研究2〔トピックの選定、タスク活動・ゲーム〕・Classroom English 2〔指導〕 第10回：教材研究3〔絵本・その他〕・発音指導 第11回：授業研究1（Small Talk の指導、パフォーマンス評価の実施） 第12回：授業研究2（ICT、デジタル教材の活用） 第13回：授業研究3（文字指導、音声と文字とを関係づける指導） 第14回：小・中・高等学校の外国語教育の連携の意義とあり方 第15回：まとめ：今後の小学校英語教育の動向、カリキュラムマネジメント、国語科との連携</p> <p>定期試験</p>
アクティブラーニング	指導と評価の計画、模擬授業計画作成などにおいては、積極的にグループ学修を取り入れる。 ディスカッションやディベートも行います。
授業内の ICT 活用	電子黒板上でデジタル教材を活用した模擬授業を行う。
評価方法	授業参加（30%）、課題・模擬授業やプレゼンテーションへの取り組み（35%）、定期試験（35%）などを基に、総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	授業内外で取り組む課題については、コメントや授業中での講評の形でフィードバックを行う。
指定図書	<p>以下に記載します。</p> <p>*以下は適宜ダウンロードして使用する 『小学校学習指導要領（平成29年告示）』 https://www.mext.go.jp/content/1413522_001.pdf 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語・外国語活動編</p>

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
最新 小学校英語教育法入門	樋口 忠彦	研究社	2200	9784327411084	
参考図書	その他、授業の進行に合わせて適宜指示します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	「予習」：関係諸理論の資料確認。教材研究および模擬授業・プレゼンテーション準備（40分） 「復習」：授業の振り返り記録〔ポートフォリオ〕（40分）				
オープンエデュケーションの活用	自主学習として文部科学省 MEXT Channel の視聴を勧めます。 https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbCsze5PvMhQ1TS-jXEZKA4f				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は文部科学省「小学校の新たな外国語教育における補助教材の検証及び新教材の開発に関する検討委員会」委員の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	保育内容総論				
科目責任者	山内 博子				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP5 専門				
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。				
科目概要	日本の幼児教育は、環境を通して行う教育である。その中で保育内容は、5 領域から発達を見通して組み立てている。そのため本科目においては、幼稚園や保育所において展開される保育内容を総合的に捉えなおし、保育実践につなげて理解することを目的とする。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育内容について理解し、子どもの発達との関係を理解する。 ・子どもの主体性を引き出すための保育環境の構成について理解を深める 				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回： オリエンテーション</p> <p>第 2 回： 子どもを取り巻く環境とこれからの保育内容</p> <p>第 3 回： 保育所・幼稚園・認定子ども園の役割</p> <p>第 4 回： 乳幼児期にふさわしい生活</p> <p>第 5 回： 保育内容を展開するプロセス</p> <p>第 6 回： 乳児（1 歳未満）の保育内容</p> <p>第 7 回： 1・2 歳児の保育内容</p> <p>第 8 回： 3・4・5 歳児の保育内容</p> <p>第 9 回： 幼保小の連携と接続</p> <p>第 10 回： 異年齢児の保育内容</p> <p>第 11 回： 子育て支援を創造する保育内容</p> <p>第 12 回： 地域に根差した保育内容の展開</p> <p>第 13 回： 保育内容の変遷</p> <p>第 14 回： 諸外国の保育内容</p> <p>第 15 回： これからの保育内容の課題</p>				
アクティブラーニング	提示された教材（講義・DVD・資料）をもとにグループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	定期試験（60%）、課題への取組（20%）、受講態度（20%）にて総合的に評価する				
課題に対するフィードバック	課題に対してだされた疑問など適宜フィードバックを行う				
指定図書	なし 授業ごとに資料を配付				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考

参考図書	保育所保育指針ハンドブック 2017 告示版 幼稚園教育要領ハンドブック 2017 告示版 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領ハンドブック 2017 告示版				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	事前学習；保育実習を踏まえ、5つの領域の内容を整理します。 事後学習；事前学習での学びを学生間で共有しながら保育内容を捉えなおし、保育者としての役割について学びます。(目安時間 40 分)				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は保育士・幼稚園教諭の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	障害児保育				
科目責任者	松下 恵美子				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。				
科目概要	障害のとらえ方や、障害児保育の考え方、保育における発達評価の大切さ、障害児保育が行われる現場について学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する 2. 様々な障害について理解し、こどもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ 3. 障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりの中で育ち合う保育実践について理解を深める 4. 障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する 5. 障害のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する 				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：なぜ特別な支援が必要なのか（到達目標－障害児の保育の重要世を学ぶ）</p> <p>第2回：発達を理解する（到達目標－標準発達を学ぶ）</p> <p>第3回：発達の違いを理解する（領域ごとにみた発達を学ぶ）</p> <p>第4回：障害の特性を理解する（1）（到達目標－肢体不自由／知的障害を学ぶ）</p> <p>第5回：障害の特性を理解する（2）（到達目標－発達障害の定義を学ぶ）</p> <p>第6回：支援方法を理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心の支援（到達目標－支援の視点を学ぶ） <p>第7回：支援の方法を理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 発達論による支援（到達目標－支援のアプローチを学ぶ） <p>第8回：支援の方法を理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 行動への支援（到達目標－困った行動の意味を学ぶ） <p>第9回：支援の方法を理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 環境調整による支援（到達目標－ものや時間の調整を学ぶ） <p>第10回：支援方法を理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 周囲の人の連携による支援（到達目標－連携について学ぶ） <p>第11回：支援の方法を考える実践ワーク（到達目標－支援の実際を学ぶ）</p> <p>第12回：個別の支援計画をつくる（到達目標－支援計画を学ぶ）</p> <p>第13回：ケーススタディ（到達目標－ケースから何が分かるかを学ぶ）</p> <p>第14回：保護者支援と今後の課題（到達目標－障害を持つ親の気持ちを学ぶ）</p> <p>第15回：まとめ（到達目標－障害児保育から何を学べたか）</p>				
アクティブラーニング	この授業は、グループワーク、ディスカッションをします。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	授業態度・感想文 20%、試験 80%				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーへのコメントは毎回次の授業でフィードバックします。				
指定図書	以下に記載します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
障害児保育ワークブック	星山麻木	萌文書林	1900	9784893474094	

参考図書	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）、『保育所保育指針解説書』（厚生労働省）				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	毎回教科書のワークシートを使って事前課題・事後課題を出します。（目安時間 40 分）				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は臨床心理士として、小児科クリニック、メンタルクリニック、学校、乳幼児健診等での相談業務の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	新型コロナウイルス対策の特例として、座席間隔を保つため 2 教室での授業を行う場合もある。その場合、1 教室で対面授業を行い、もう 1 教室は同時双方向型メディア授業を実施する。				

科目名	小学校インターンシップⅡ
科目責任者	福重 浩之
単位数他	1 単位 (45 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	この授業では、教育実習に連なるインターンシップ実習Ⅰ～Ⅲを実施する小学校教育現場を選び、開講期間中に合計で 30 時間以上実際にその教育現場を訪問し、当該教育現場において授業だけではなく特別活動や授業以外の場面でどのような教育活動が展開されているかを観察・理解することを目的とする。小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。
到達目標	小学校教育現場を実際に訪問し、そこで展開される教育活動を観察することを通して、教育に従事する重要性を認識することができる。
授業計画	<p><担当教員名>鈴木光男、飯田真也、福重浩之、竹本石樹 <授業内容・テーマ等></p> <p>【事前指導】 第1回： ガイダンス（4月） 授業の進め方・実習内容・事前訪問・手続き等の確認 ※事前訪問は4月中に済ませ、大学の実習担当教員と個別面談を通して報告する。 第2回： 小学校インターンシップ実習の意義・目的・方法・実習計画・実習の目標設定（4月） 第3回：実習ノートの書き方の基本：意義と書き方、実習計画の提出 ※5月のインターン実習初日は、受け入れ先小学校の校長に実習目標と計画を提出し、面談・指導を受ける。 【実習の進め方】 1. 学生はインターンシップ実習として受け入れ先小学校を選定し、該当小学校と打ち合わせて曜日や時間、配当学年などを決める。 2. 原則として、実習時間は職員の勤務時間に準じて行う 3. 実習ノートは大学指定の用紙を使用し、インターンシップ実習をするたびに小学校の指導教諭に活動内容や時間数の確認を受ける。 4. 実習の振り返りを、校長・実習担当者・指導教諭とともに行う。 【実習内容】 ①授業や特別活動を通して、児童の生活や学習を知る ②特別活動の中での教師の動きを知る ・運動会など学校行事の準備・片付けや当日の運営の補助・手伝い ・委員会やクラブ活動指導などの補助・手伝い ・給食・清掃指導などの補助・手伝いなど ③学級経営（主に掲示）での教師の役割・働きを知る ・掲示物の作成・掲示・片付け ・朝読書の読み聞かせ など 【事中指導】（5月、6月、7月に1時間ずつ計3回実施） インターン実習の経過状況の確認と振り返り・翌月の目標と計画の設定 【事後指導】（8月） 実習の振り返り（発表と共有）</p>
アクティブラーニング	実習科目であるため、積極的に実習に参加することが重要であることを理解して履修してほしい。小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。
授業内の ICT 活用	授業時に指導案の作成や実践報告時に使用する。
評価方法	実習先小学校からの評価（40%） 実習ノート（30%） 学生と教員との面談における振り返り（30%）

	計100% ・ルーブリックでの評価はしない。ただし、実習先小学校からの評価表をもとに、個々に面談をし、評価を確かなものとする。				
課題に対するフィードバック	課題、インターンシップ実習校からの評価、巡回指導時の指導、実習ノート等をもとに総合的に判断して評価する。				
指定図書	授業時に適宜資料等を配布する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	特になし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学習；インターンシップ実習校の時間割や行事予定などを確認し、日誌に明記し、インターン実習のその月の計画を立案する（月に1度、確認する）。 事後学習；その都度インターンシップ実習内容を振り返り、自身の実習について課題を明らかにし、日誌に明記し提出する（目安時間40分。月に1度、確認する）。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	福重 浩之 (2607 研究室) メール: hiroyuki-f@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	小学校インターンシップⅢ					
科目責任者	福重 浩之					
単位数他	1 単位 (45 時間) 選択 8 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP5 専門					
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。					
科目概要	この授業では、インターンシップ実習Ⅱ同様に、開講期間中に合計で 30 時間以上実際にその教育現場を訪問し、教科・領域の学習や特別活動など主には授業場面で児童と関わり、授業の進め方を実践的に理解することを目的とする。					
到達目標	インターンシップ実習Ⅰ、Ⅱ、教育実習を踏まえ、同じ小学校にて実習し、主には教科・領域の授業内での児童の学習指導に関わり、教師の役割を知ると共に基本的な授業の進め方を理解し、現職教師としての資質能力につなげる。小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。					
授業計画	<p><担当教員名>鈴木光男、飯田真也、福重浩之、竹本石樹 <授業内容・テーマ等> 【事前指導】 目標と計画の設定 授業の進め方・実習内容・事前訪問等の確認、実習計画・実習の目標設定 ※受け入れ先小学校への事前訪問は 10 月初旬までに済ませ、実習目標や計画を小学校に提出する。 ※その後、大学の実習担当教員と個別面談を通して報告する。 【実習の進め方】 1. 学生はインターンシップ実習ⅠⅡと同じ小学校で実習する曜日や時間、配当学年などを決める。 2. 原則として、実習時間は職員の勤務時間に準じて行う。 3. 実習ノートは大学指定の用紙を使用し、インターンシップ実習をするたびに小学校の指導教諭に活動内容や時間数の確認を受ける。 4. 実習の振り返りを、校長・実習担当者・指導教諭とともに行う。 【実習内容】 ①Ⅰ・Ⅱから引き続き授業内外の活動を通して、児童への関わりを深める。 ②つまずきのある児童や特別な支援を必要とする児童への支援・指導のあり方を知り、授業内で関わる。 ・教師の支援・指導上のポイントの把握 など ③授業や特別活動を通して、児童へのかかわり方を理解し、実践する。 ・運動会や各種行事での指導のあり方の把握 ・各授業の学習過程の違いやポイントの理解など 【事中指導】 (11 月、12 月、1 月に 1 時間ずつ 3 回実施) インターン実習の経過状況の確認と振り返り・翌月の目標と計画の設定 【事後指導】 (1 月) 実習の振り返り (発表と共有)</p>					
アクティブラーニング	実習科目であるため、積極的に実習に参加することが重要であることを理解して履修してほしい。小学校等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。					
授業内の ICT 活用	授業時に指導案の作成や実践報告時に使用する。					
評価方法	実習先小学校からの評価 (40%)、実習ノート (30%)、学生と教員との面談における振り返り (30%) 計 100%					
課題に対するフィードバック	課題、インターンシップ実習校からの評価、巡回指導時の指導、実習ノート等をもとに総合的に判断して評価する。					
指定図書	授業時に適宜資料等を配布する。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	

参考図書	特になし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<p>事前学習；インターンシップ実習校の時間割や行事予定などを確認し、日誌に明記し、インターン実習のその月の計画を立案する。</p> <p>事後学習；その都度インターンシップ実習内容を振り返り、自身の実習について課題を明らかにし、日誌に明記し提出する。(目安時間 40 分)</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	福重 浩之 (2607 研究室) メール:hiroyuki-f@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	総合演習 I (SC・教員名)
科目責任者	特任を除く専任教員
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門基礎
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	これまでのさまざまな学びを踏まえ、学生一人ひとりが専門的な学修を進めていく。読む、調べる、考える、書く、まとめる、発表する、討議する等の力を深め、応用力を養うことを目的とする。各自のテーマは、関心のある領域の担当教員の指導を受けながら学生が設定し、演習での学びを通して専門的理解を深め、その成果物を作成し発表を行う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自主的に調べ、文献資料等を活用し、まとめ、発表、討議をすることができる。 2. 自らのテーマを見つけだすことができる。 3. 自らのテーマ・課題に基づき、目的に向けて方法を考え、実行する、まとめる、発表する、討議することができる。 4. 大学生活最後の学びをまとめ、卒業研究発表会で人に伝わるように発表することができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> 本科目は、基本的に授業の進め方、内容、方法等の詳細については、担当指導教員がメンバーとの相談の上で決める。(総合演習ガイダンス参照)</p> <p>6セメスター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合演習の意義を理解と目的 ・与えられた課題を調べ、文献資料等を活用しまとめる ・調べたこと、考えたこと等を発表し、討議する <p>7セメスター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己のテーマを探す ・自己のテーマを見つけ出す ・自己のテーマに基づき文献を読むみ、自己の考えをまとめる ・自己のテーマに基づきフィールド調査や教材等の作成を行う。 直接、人間を対象とする調査・研究を行う際は倫理的配慮を図る。 ・研究倫理について学ぶ ・テーマをまとめ、発表する <p>8セメスター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の形式にまとめる ・卒業研究発表会の準備 ・卒業研究発表会にて発表する <p>*詳細は担当指導教員の Web シラバス参照</p>
アクティブラーニング	少人数のゼミで行う。○グループディスカッション ○プレゼンテーション
授業内の ICT 活用	*担当指導教員の Web シラバス参照
評価方法	<p><こども教育福祉学科></p> <p>I : 授業への参加状況 (出席、参加度 (意欲・態度)、レジュメ等) 50%、レポート 50%</p> <p>II : 授業等への参加状況 (出席、参加度 (意欲・態度)、発表会への参加度) 40%、最終提出物 60%</p> <p>・最終提出物はルーブリック (WebClass に掲載) を用いて評価する。</p>
課題に対するフィードバック	授業内でそのつどフィードバックする。

ク						
指定図書	*担当指導教員の Web シラバス参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 /備考	
参考図書	*担当指導教員の Web シラバス参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 /備考	
事前・事後学習	事前学習：前回の課題を調べ、発表できるようにする 事後学習：今回の授業をふまえ自己のテーマの課題について考える 原則として、40 分程度の事前・事後学習はそれぞれで実施すること					
オープンエデュケーションの活用	*担当指導教員の Web シラバス参照					
オフィスアワー	*担当指導教員の Web シラバス参照					
実務経験に関する記述	*担当指導教員の Web シラバス参照					
メディア授業の実施について	基本的にはなし。 必要に応じて実施する。					

科目名	総合演習Ⅱ (SC・教員名)
科目責任者	特任を除く専任教員
単位数他	2単位 (30時間) 必修 78セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門基礎
科目の位置付	設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	これまでのさまざまな学びを踏まえ、学生一人ひとりが専門的な学修を進めていく。読む、調べる、考える、書く、まとめる、発表する、討議する等の力を深め、応用力を養うことを目的とする。各自のテーマは、関心のある領域の担当教員の指導を受けながら学生が設定し、演習での学びを通して専門的理解を深め、その成果物を作成し発表を行う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自主的に調べ、文献資料等を活用し、まとめ、発表、討議をすることができる。 2. 自らのテーマを見つけ出すことができる。 3. 自らのテーマ・課題に基づき、目的に向けて方法を考え、実行する、まとめる、発表する、討議することができる。 4. 大学生活最後の学びをまとめ、卒業研究発表会で人に伝わるように発表することができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> 本科目は、基本的に授業の進め方、内容、方法等の詳細については、担当指導教員がメンバーとの相談の上で決める。(総合演習ガイダンス参照)</p> <p>6セメスター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合演習の意義を理解と目的 ・与えられた課題を調べ、文献資料等を活用しまとめる ・調べたこと、考えたこと等を発表し、討議する <p>7セメスター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己のテーマを探す ・自己のテーマを見つけ出す ・自己のテーマに基づき文献を読むみ、自己の考えをまとめる ・自己のテーマに基づきフィールド調査や教材等の作成を行う。 直接、人間を対象とする調査・研究を行う際は倫理的配慮を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・研究倫理について学ぶ ・テーマをまとめ、発表する <p>8セメスター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の形式にまとめる ・卒業研究発表会の準備 ・卒業研究発表会にて発表する <p>*詳細は担当指導教員の Web シラバス参照</p>
アクティブラーニング	少人数のゼミで行う。○グループディスカッション ○プレゼンテーション
授業内の ICT 活用	*担当指導教員の Web シラバス参照
評価方法	<p><こども教育福祉学科></p> <p>I：授業への参加状況(出席、参加度(意欲・態度)、レジュメ等) 50%、レポート 50%</p> <p>II：授業等への参加状況(出席、参加度(意欲・態度)、発表会への参加度) 40%、最終提出物 60%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終提出物はルーブリック (WebClass に掲載) を用いて評価する。
課題に対するフィードバック	授業内でそのつどフィードバックする。

ク						
指定図書	*担当指導教員の Web シラバス参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 /備考	
参考図書	*担当指導教員の Web シラバス参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 /備考	
事前・事後学習	事前学習：前回の課題を調べ、発表できるようにする 事後学習：今回の授業をふまえ自己のテーマの課題について考える 原則として、40 分程度の事前・事後学習はそれぞれで実施すること					
オープンエデュケーションの活用	*担当指導教員の Web シラバス参照					
オフィスアワー	*担当指導教員の Web シラバス参照					
実務経験に関する記述	*担当指導教員の Web シラバス参照					
メディア授業の実施について	基本的にはなし。 必要に応じて実施する。					

科目名	国際バカロレア教育概論				
科目責任者	Morten J. Vatn				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP7 専門				
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。				
科目概要	国際的視野を持つ人間へと育つためには、国際教育とは何かについて、国際バカロレア (IB) の枠組み—概論を通して理解を深める。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際バカロレア (IB) における教師の役割を理解する。 2. 国際教育や国際バカロレア (IB) の理念に影響を与えた方法論について把握する。 3. 国際バカロレア (IB) の学習者像やエイジェンシーに焦点を当て、アイデンティティと生涯学習者としての学びについて考える。 4. 教育における自己肯定感の大切や役割について省察する。 5. 国際バカロレア (IB) における国際教育の学びを成果について考察する。 				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>モーテン・ヴァテン、太田雅子 第1・2回：授業のオリエンテーション (課題と評価について) 国際教育と IB。隣人愛と国際教育、多様性、国際的視野と異文化理解について ヴァテン、太田 第3・4回：IB と PYP (初等教育プログラム) の5つの基本要素 ヴァテン、ゲストスピーカー (ピーター・サガン) 第5・6回：様々な思考法 (批判的・創造的・言語的・概念的思考など)、構成主義 (主体的) ヴァテン、菅井 第7・8回：IB の学習者と国際的視野、社会的構成主義 (対話的) ヴァテン・菅井 第9・10回：IB の学習者：エイジェンシー ヴァテン、菅井 第11・12回：IB の学習者：声・選択・オーナーシップ ヴァテン 第13・14回：IB の学習者：行動 ヴァテン 第15回：まとめと振り返り ヴァテン、ゲストスピーカー (ピーター・サガン)</p>				
アクティブラーニング	本授業は、学生がディスカッション、協働設計、振り返りを主体的・積極的に進行する。				
授業内の ICT 活用	必要内容について ICT を用いて検索したり、フィードバックや振り返りを行ったりする。				
評価方法	授業参加：45% 毎回の課題 (レポート、前回の振り返り、学習の証拠、プロセスジャーナルを含む)：55% ※全ての評価はルーブリックに基づいて行う				
課題に対するフィードバック	担当教員から、学生相互のフィードバック・フィードフォワードを随時行う。また、必要に応じて、学修の進行を促すアドバイスを行う。				
指定図書	講義の中で随時、案内する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
参考図書	講義の中で随時、案内する。				

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<p>授業開始時に渡されるシラバスに基づき、事前学習の課題、学習の証拠の作成、前回のリフレクションを行うことが期待されます（毎回の学習時間の目安は約40分）。</p> <p>① 授業前に Google Classroom 内の事前課題に回答すること（各40分、2回から15回まで）</p> <p>② 授業後に Google Classroom 内の「学習の証拠」に回答すること（各40分、2回から15回まで）</p> <p>③ 授業の冒頭で「前回の振り返り」を行うこと（全員一度、ファシリテーターの役割を経験すること）</p> <p>④ プロセスジャーナル「学習の証拠について」を作成し、ループリックで自己評価してから提出すること（80分）</p>				
オープンエデュケーションの活用	IBO（国際バカロレア機構・MYIB）が提供するリソースなどを活用する。				
オフィスアワー	<p>所属学部：社会福祉学部 研究室：5706（5号館） 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（morten@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。</p>				
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園」「小学校」「インターナショナルスクール」での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。				
メディア授業の実施について	基本は対面で行うが、ゲストスピーカーに関してはTV会議システムを利用して実施する場合がある。				

科目名	国際バカロレア教育課程論				
科目責任者	Morten J. Vatn				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP7 専門				
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。				
科目概要	国際バカロレア (IB) 教育・PYP (プライマリーイヤーズ) のカリキュラムの構造、特徴について理解をする。21 世紀型の教育実践について学びを深める。				
到達目標	1. PYP のカリキュラム (逆向き設計、パフォーマンス評価と協働学習) について理解する。 2. PYP における探究型学習の実践について理解する。 3. 21 世紀型スキルと PYP におけるテクノロジーについて理解する。 4. 持続可能な開発のための教育 (ESD/SDG) 授業のつくり方と環境教育の今後の方向性について理解する。 5. PYP における日本と国際カリキュラムについて理解する。				
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>モーテン・ヴァテン、鈴木光男 第1・2回: IB/PYP のカリキュラムとは?概念型探究学習と IB の学習者像 ヴァテン、ゲストスピーカー(ピーター・サガン) 第3・4回: 生涯学習者のスキルを育てる。21 世紀型スキルと目標設定 ヴァテン 第5・6回: カリキュラムは何のためのものか、PYP カリキュラムの原理 ヴァテン 第7・8回: 逆向き設計、パフォーマンス課題の指導案 ヴァテン 第9・10回: PYP におけるテクノロジー (グローバル・デジタルシティズンシップ) ヴァテン、ゲストスピーカー (ピーター・サガン) 第11・12回: 持続可能な開発のための教育、学習者の行動について考える (SDGs ワークショップ) ヴァテン、鈴木 第13・14回: 日本と国際カリキュラム: 比較検討, パフォーマンス課題の実践 ヴァテン 第15回: パフォーマンス課題の実践、まとめと振り返り ヴァテン、鈴木				
アクティブラーニング	本授業は、学生がディスカッション、協働設計、振り返りを主体的・積極的に進行する。				
授業内の ICT 活用	必要内容について ICT を用いて検索したり、フィードバックや振り返りを行ったりする。				
評価方法	授業参加: 45% 毎回の課題 (レポート、前回の振り返り、学習の証拠、プロセスジャーナルを含む): 55% ※全ての評価はルーブリックに基づいて行う				
課題に対するフィードバック	担当教員から、学生相互のフィードバック・フィードフォワードを随時行う。また、必要に応じて、学修の進行を促すアドバイスを行う。				
指定図書	講義の中で随時、案内する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
参考図書	講義の中で随時、案内する。				

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<p>授業開始時に渡されるシラバスに基づき、事前学習の課題、学習の証拠の作成、前回のリフレクションを行うことが期待されます（毎回の学習時間の目安は約40分）。</p> <p>① 授業前に Google Classroom 内の事前課題に回答すること（各40分、2回から15回まで）</p> <p>② 授業後に Google Classroom 内の「学習の証拠」を作成すること（各40分、2回から15回まで）</p> <p>③ 授業の冒頭で「前回の振り返り」を行うこと（全員一度、ファシリテーターの役割を経験すること）</p> <p>④ プロセスジャーナル「学習の証拠について」を作成し、ループリックで自己評価してから提出すること（80分）</p>				
オープンエデュケーションの活用	IBO（国際バカロレア機構・MY IB）が提供するリソースなどを活用する。				
オフィスアワー	<p>所属学部：国際教育学部 研究室：5706（5号館） 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（morten@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。</p>				
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園」「小学校」「インターナショナルスクール」での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。				
メディア授業の実施について	基本は対面で行うが、ゲストスピーカーに関してはTV会議システムを利用して実施する場合がある。				

科目名	国際バカロレア教育方法論					
科目責任者	Morten J. Vatn					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 7 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP7 専門					
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。					
科目概要	PYP の教育アプローチ (方法) を理解する。また、教科横断的なテーマ (TT)、中心的アイデア (CI)、探究の流れ (LOI)、探究プログラム (POI)、探究の単元 (UOI) をどのように作成し、評価するかを学ぶ。さらに、PYP のエキシビション (PYPX) の位置付けを理解する。					
到達目標	1. PYP の学校で行われている概念型探究学習について、より深く理解する。 2. 探究の単元 (UOI) を作成する。 3. 中心的アイデア (CI)、探究の流れ (LOI)、重要概念 (KC)、関連概念 (RC)、学習者像が POI の内外でどのように統合され、発展していくかを検討する。					
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>モーテン・ヴァテン 第1・2回: 教科横断的な枠組みの中での教師の役割と協働設計とは ヴァテン、ゲストスピーカー (ピーター・サガン) 第3・4回: 中心的アイデア (CI) を作成する。関連概念とは? ヴァテン 第5・6回: 探究の単元プランナー (UOI) を通して協働設計と逆向き設計を再検討する。 ヴァテン 第7・8回: ミニ単元の実戦 (チームティーチング) ① ヴァテン 第9・10回: ミニ単元の実戦 (チームティーチング) ② ヴァテン 第11・12回: ミニ単元の実戦 (チームティーチング) ③ ヴァテン 第13・14回: PYPX (PYP エキシビション) 実戦と評価 ヴァテン 第15回: まとめと振り返り ヴァテン、ゲストスピーカー (ピーター・サガン)					
アクティブラーニング	本授業は、学生がディスカッション、協働設計、振り返りを主体的・積極的に進行する。					
授業内の ICT 活用	必要内容について ICT を用いて検索したり、フィードバックや振り返りを行ったりする。					
評価方法	授業参加: 45% 毎回の課題 (レポート、前回の振り返り、学習の証拠、プロセスジャーナルを含む): 55% ※全ての評価はルーブリックに基づいて行う					
課題に対するフィードバック	担当教員から、学生相互のフィードバック・フィードフォワードを随時行う。また、必要に応じて、学修の進行を促すアドバイスを行う。					
指定図書	講義の中で随時、案内する。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	講義の中で随時、案内する。					

	グラント ウィギンズ (著), ジェイ マクタイ (著), Grant Wiggins (原名), Jay McTighe (原名). 理解をもたらすカリキュラム設計―「逆向き設計」の理論と方法. 2012				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 /備考
思考する教室をつくる概念型カリキュラムの理論と実践 不確実な時代を生き抜く力	H. リン・エリクソン 著	北大路書房	3400	9784762831201	
事前・事後学修	<p>授業開始時に渡されるシラバスに基づき、事前学習の課題、学習の証拠の作成、前回のリフレクションを行うことが期待されます (毎回の学習時間の目安は約 40 分)。</p> <p>① 授業前に Google Classroom 内の事前課題に回答すること (各 40 分、2 回から 15 回まで)</p> <p>② 授業後に Google Classroom 内の「学習の証拠」に回答すること (各 40 分、2 回から 15 回まで)</p> <p>③ 授業の冒頭で「前回の振り返り」を行うこと (全員一度、ファシリテーターの役割を経験すること)</p> <p>④ プロセスジャーナル「学習の証拠について」を作成し、ルーブリックで自己評価してから提出すること (80 分)</p>				
オープンエデュケーションの活用	IBO (国際バカロレア機構・MY IB) が提供するリソースなどを活用する。				
オフィスアワー	<p>所属学部：国際教育学部 研究室：5706 (5 号館) 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (morten@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。</p>				
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園」「小学校」「インターナショナルスクール」での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。				
メディア授業の実施について	基本は対面で行うが、ゲストスピーカーに関しては TV 会議システムを利用して実施する場がある。				

科目名	国際バカロレア教育学習アセスメント				
科目責任者	Morten J. Vatn				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 7 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP7 専門				
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。				
科目概要	PYP における評価の目的、効果的な評価の特徴、また、PYP 校でどのように統合的な評価の文化を育めるかについて学びます。そして、評価する能力のある教師になるために、フィードバックや多数のストラテジーを活用して自分の学習を調整し、改善します。さらに、PYP における評価はどのように行われるか、つまり学習のモニタリング、記録、測定や報告をどのように支えることができるかを理解します。				
到達目標	1. 学習評価の在り方について理解する。 2. PYP の教師として学習のモニタリング、記録、測定や報告の実践を理解する。 3. 厳格な評価の仕組みを計画的に協働設計する。				
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>モーテン・ヴァテン 第 1・2 回：学習評価の在り方について、学習のための評価 学習の評価 学習としての評価 ヴァテン 第 3・4 回：IB 国際バカロレアの厳格な評価の仕組み、効果的なフィードバック（フィードバックを受ける, フィードフォワードを提供する） ヴァテン、ゲストスピーカー（サガン） 第 5・6 回：評価戦略の開発 - 創造性は評価できるのか？ ヴァテン 第 7・8 回：感情知能（E I）」と「文化の知能指数 C Q）」を探り、自己肯定感を育む ヴァテン 第 9・10 回：評価の最適個別化, SOLO を使った理解の評価 主体性の評価 ヴァテン 第 11・12 回：PYPX（PYP エクシビション）実戦と評価 ヴァテン 第 13・14 回：PYPX（PYP エクシビション）実戦と評価 ヴァテン、ゲストスピーカー（サガン） 第 15 回：まとめと振り返り ヴァテン				
アクティブラーニング	本授業は、学生がディスカッション、協働設計、振り返りを主体的・積極的に進行する。				
授業内の ICT 活用	必要内容について ICT を用いて検索したり、フィードバックや振り返りを行ったりする。				
評価方法	授業参加：45% 毎回の課題（レポート、前回の振り返り、学習の証拠、プロセスジャーナルを含む）：55% ※全ての評価はルーブリックに基づいて行う				
課題に対するフィードバック	担当教員から、学生相互のフィードバック・フィードフォワードを随時行う。また、必要に応じて、学修の進行を促すアドバイスを行う。				
指定図書	講義の中で随時、案内する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考

参考図書	講義の中で随時、案内する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<p>授業開始時に渡されるシラバスに基づき、事前学習の課題、学習の証拠の作成、前回のリフレクションを行うことが期待されます（毎回の学習時間の目安は約40分）。</p> <p>① 授業前に Google Classroom 内の事前課題に回答すること（各40分、2回から15回まで）</p> <p>② 授業後に Google Classroom 内の「学習の証拠」に回答すること（各40分、2回から15回まで）</p> <p>③ 授業の冒頭で「前回の振り返り」を行うこと（全員一度、ファシリテーターの役割を経験すること）</p> <p>④ プロセスジャーナル「学習の証拠について」を作成し、ループリックで自己評価してから提出すること（80分）</p>				
オープンエデュケーションの活用	IBO（国際バカロレア機構・MY IB）が提供するリソースなどを活用する。				
オフィスアワー	<p>所属学部：社会福祉学部 研究室：5706（5号館） 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（morten@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。</p>				
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園」「小学校」「インターナショナルスクール」での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。				
メディア授業の実施について	基本は対面で行うが、ゲストスピーカーに関してはTV会議システムを利用して実施する場合がある。				

科目名	国際バカロレア教育総合演習				
科目責任者	Morten J. Vatn				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 8 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP7 専門				
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。				
科目概要	IBEC コース 1～4 を踏まえて、PYP 教員の実力を想定した実習を行う。また、実践を通して、協働設計と反省的实践家のスキルを高め、IB における指導と学習の意味を深める。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. プロセスジャーナルを作成する。 2. 個別化された学習者の対応をする。 3. アクティブラーニングを実践する。 4. 形成的評価を行う。 5. 様々なリソースを活用する。 6. プロジェクトを報告する。 				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>モーテン・ヴァテン、太田雅子、二宮貴之、鈴木光男 第1・2回：オリエンテーション、IB/ PYP の「学習と指導」の境界を設定する。IB/PYP 認定校実践の内容について検討する。 ヴァテン、二宮 第3・4回： 実践の事前準備 ー 聖隷クリストファー小学校と子ども園での「教師の役割」・「POI・UOI」 ・「ファシリテーション」 ヴァテン、二宮 第5～12回：実践 I 聖隷クリストファー小学校・子ども園（認定校）での実習（プロセスジャーナルに記録・毎回提出） ヴァテン、二宮 第13～14回：実践 II サレジオ小学校と名古屋インターナショナル（認定校）での実習 ヴァテン、二宮 第15回：まとめ、振り返り（レポート、プロセスジャーナル提出）</p> <p>※講義内容は変更の可能性があります。 ※実戦はIB認定校である聖隷クリストファー小学校・聖隷クリストファー大学附属クリストファー子ども園・静岡サレジオ幼稚園・小学校と名古屋インターナショナルスクールで行います。</p>				
アクティブラーニング	本授業は、学生がディスカッション、協働設計、振り返りを主体的・積極的に進行する。				
授業内の ICT 活用	必要内容について ICT を用いて検索したり、フィードバックや振り返りを行ったりする。				
評価方法	参加度（意欲・態度）：45% 毎回の課題（レポート、前回の振り返り、学習の証拠、プロセスジャーナルを含む）：55% ※全ての評価はルーブリックに基づいて行う				
課題に対するフィードバック	担当教員から、学生相互のフィードバック・フィードフォワードを随時行う。また、必要に応じて、学修の進行を促すアドバイスを行う。				
指定図書	講義の中で随時、案内する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	講義の中で随時、案内する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

事前・事後学修	<p>授業開始時に渡されるシラバスに基づき、事前学習の課題、学習の証拠の作成、前回のリフレクションを行うことが期待されます（毎回の学習時間の目安は約40分）。</p> <p>① 授業前に Google Classroom 内の事前課題に回答すること（各40分、2回から15回まで）</p> <p>② 授業後に Google Classroom 内の「学習の証拠」を作成すること（各40分、2回から15回まで）</p> <p>③ 授業の冒頭で「前回の振り返り」を行うこと（全員一度、ファシリテーターの役割を経験すること）</p> <p>④ 実習中にグループでのプロセスジャーナルを作成し、次回の実習日までに提出すること（40分）</p> <p>⑤ 実習期間終了後にレポートを作成し、ルーブリックで自己評価を行った後、提出すること（80分）</p>				
オープンエデュケーションの活用	IBO（国際バカロレア機構・MY IB）が提供するリソースなどを活用する。				
オフィスアワー	<p>所属学部：国際教育学部 研究室：5706（5号館） 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（morten@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。</p>				
実務経験に関する記述	本科目は「幼稚園」「認定こども園」「小学校」「インターナショナルスクール」での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。				
メディア授業の実施について	基本は対面で行うが、ゲストスピーカーに関してはTV会議システムを利用して実施する場合がある。				

科目名	多文化共生と教育					
科目責任者	宇都宮 裕章					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 7 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP7 専門					
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。					
科目概要	グローバル化の進行に伴い、国籍や文化的背景・使用言語が異なる人々との間の相互理解と共生に向けて必要とされる点 (価値観・ゴール・方法) について学ぶ。特に、公教育場面における言語 (日本語) 教育の実態・内容・方法について検討し、外国に繋がる子どもたちの学習・生活支援について理解を深める。					
到達目標	1. 地域共生社会における教育について、その理論と実際を理解する。 2. 国際理解教育・多文化共生教育・言語教育について理解する。 3. 外国に繋がる子どもたちの学習・支援について理解する。					
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回 公教育場面での多文化共生 (授業概要・現状・背景) 第2回 多文化・多言語環境への対応 (目標・方向性) 第3回 学習者 (主体) を考える 1 第4回 学習者 (主体) を考える 2 第5回 実践研究演習 1 (資料分析・文献調査) 第6回 教育内容 (素材) を考える 1 (素材観) 第7回 教育内容 (素材) を考える 2 (種類) 第8回 教育内容 (素材) を考える 3 (対応) 第9回 教育内容 (素材) を考える 4 (取り扱い方) 第10回 実践研究演習 2 (素材分析) 第11回 教育環境 (場面) を考える 1 (環境・状況) 第12回 教育環境 (場面) を考える 2 (活動方法) 第13回 教育環境 (場面) を考える 3 (形成過程) 第14回 教育環境 (場面) を考える 4 (評価・デザイン) 第15回 実践研究演習 3 (場面分析)					
アクティブラーニング	グループディスカッションやプレゼンテーション等、共同的な学びを行う。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	中間課題 15%、授業への取り組み 75%、期末課題 10%					
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー、ワークシート等を元に授業時間の中でフィードバックをする。					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	宇都宮裕章(2011)『新ことば教育論』風間書房					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。原則として1時間程度の事前・事後学					

	修をすること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	日本語教育の実務経験者による講義
メディア授業の実施について	なし

科目名	多様な子どもの理解				
科目責任者	池田 信子				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP6 専門				
科目の位置付	教育・保育の領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携・協働することができる。				
科目概要	子どもの複雑化・多様化した課題（不登校・貧困・外国国籍・発達支援等）に対応するための理解を深める。個々の問題やニーズの理解と方法、協力体制の作り方について理解を深める。				
到達目標	1. 様々な課題を抱える子どもやその家庭の現状について理解する。 2. 支援のための方法を理解する。 3. チーム・アプローチについて理解する。				
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回 特別な支援を必要とする子どもについての理解（現状） 第2回 発達障害特性がある子どもについての理解 第3回 発達障害特性がある子どもへの支援（事例検討） 第4回 いじめ、不登校、問題行動のある子どもについての理解 第5回 いじめ、不登校、問題行動のある子どもへの支援（事例検討） 第6回 ヤングケアラーの実際 第7回 言語・文化の異なる子ども（外国国籍）についての理解 第8回 家庭支援が必要なケースについて（貧困・養育の問題、マルチリトメント） 第9回 特別な課題のある子どもの理解（LEBT、ギフテッド） 第10回 特別な課題のある子どもの理解（災害被災者、産前産後のケア） 第11回 特別な課題のある子どもの理解（見た目問題等） 第12回 学校や地域におけるチーム・アプローチについて「Team 学校」（概要） 第13回 連携、インクルーシブを学ぶ 第14回 グループワーク（ケース検討） 第15回 まとめ・小テスト				
アクティブラーニング	事例検討等を行う。グループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	レポート課題(2回)60% 授業振り返りシートの記述(授業への取り組み)20% 小テスト20% ルーブリックは用いない。課題の提出が遅れると減点される。				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー、振り返りシートを元に授業の中でフィードバックをする。				
指定図書	プリント等を配布する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
参考図書	授業内にて随時提示する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。原則として 40 分程度の事前・事後学習				

	をすること
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は幼稚園教諭の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	多様な子どもの支援				
科目責任者	池田 信子				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP6 専門				
科目の位置付	教育・保育の領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携・協働することができる。				
科目概要	複雑化・多様化する子どもの問題構造と支援方法について、事例から理解する。子どもの背景・文脈を含めた多様なアセスメントと問題解決の実際を学ぶ。「チーム学校」の展開について理解する。組織として機能するための自己のあり方について理解を深める。				
到達目標	1. 個別アセスメントの方法を理解する。 2. 学習支援の方法について理解する。 3. 校（園）内連携・専門職連携の実際について理解する。				
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回 支援のためのアセスメントとは 第2回 自己肯定感・自己決定力を高める関わりの方法(理論、ワーク) 第3回 愛着障害についての理解と支援 第4回 発達障害の理解と支援 第5回 発達障害の二次障害の理解と支援 第6回 クラスにおけるユニバーサルデザインの視点 第7回 指導計画と模擬授業についての説明 第8回 個別課題に合わせた指導計画と模擬授業（保育）・発表① 第9回 個別課題に合わせた指導計画と模擬授業（保育）・発表②、フィードバック 第10回 相談援助技術演習(自分の価値観、他者の価値観) 第11回 保護者に対する相談支援の技法①(多様性を受け入れる) 第12回 保護者に対する相談支援の技法②(振り返る・学ぶ) 第13回 療育的アプローチの実際 第14回 チーム学校についての理解を深める 第15回 まとめ ・小テスト				
アクティブラーニング	ワークや事例検討等を行う。グループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	レポート課題(2回)60% 授業振り返りシートの記述(授業への取り組み)20% 小テスト20% ルーブリックは用いない。課題の提出が遅れると減点される。				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー、振り返りシートを元に授業の中でフィードバックをする。				
指定図書	プリント等を配布する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	授業内にて随時提示する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。原則として 40 分程度の事前・事後学習				

	をすること
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は幼稚園教諭の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	プログラミング教育 I				
科目責任者	竹本 石樹				
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 7 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。				
科目概要	<p>●小学生に必要な「プログラミング的思考」を学ぶ。</p> <p>●具体的には、ゲームづくりや生活に役立つものづくり等に取り組む中で、体験的に「プログラミング的思考」についての理解を深める。</p> <p>*「プログラミング的思考」とは、「自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力」(文部科学省「小学校プログラミング教育に関する手引き」より)</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 小学生に「プログラミング的思考」を育成する必要性を理解できる。 小学校における「プログラミング的思考」育成のための教材活用スキルを習得できる。 小学校の授業場面における「プログラミング的思考」育成のためのポイントを習得できる。 				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：ガイダンス (現代社会とプログラミング、プログラミング的思考、基本アルゴリズム、小学校プログラミング教育の内容と導入の経緯など)</p> <p>第2回：理科・プログラミング授業の検討(MESH 基礎_準備から活用、授業への導入)</p> <p>第3回：理科・プログラミング授業の検討(MESH 活用演習①)</p> <p>第4回：理科・プログラミング授業の検討(MESH を活用演習②)</p> <p>第5回：算数科・プログラミング授業の検討(Scratch 基礎_準備から活用、授業への導入)</p> <p>第6回：算数科・プログラミング授業の検討(Scratch 活用演習①)</p> <p>第7回：算数科・プログラミング授業の検討(Scratch 活用演習②)</p> <p>第8回：算数科・プログラミング授業の検討(Scratch 活用演習③)</p> <p>第9回：総合・プログラミング授業の検討 (AkaDako 基礎_準備から活用、授業への導入)</p> <p>第10回：総合・プログラミング授業の検討 (AkaDako 活用演習①)</p> <p>第11回：総合・プログラミング授業の検討 (AkaDako 活用演習②)</p> <p>第12回：総合・プログラミング授業の検討 (AkaDako 活用演習③)</p> <p>第13回：「プログラミング的思考」を育成するための授業構想 (検討)</p> <p>第14回：「プログラミング的思考」を育成するための授業構想 (発表)</p> <p>第15回：授業のまとめと振り返り</p>				
アクティブラーニング	ものづくりの重視 グループによる模擬授業の検討と発表、リフレクション				
授業内の ICT 活用	ICT を利用して実際にプログラミングを体験する。				
評価方法	(1) 授業で課した課題 (教材開発、プレゼンテーションなど) の評価…60% (2) 授業態度 (学習記述、参加態度など) …40%				
課題に対するフィードバック	各回に記入した授業ワークシートをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。レポートや指導案はルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。				
指定図書	授業時に資料配付				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考

参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。(学修の目安時間は40分)				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問には、授業時に直接、もしくは研究室訪問にてお答えします。				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	プログラミング教育Ⅱ				
科目責任者	竹本 石樹				
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 8 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。				
科目概要	<p>●「プログラミング教育Ⅰ」で育成した「プログラミング的思考」を基礎とし、小学校のプログラミング教育実践を行う上で必要とされる教材開発や指導の手法等を習得する。</p> <p>●具体的には、小学校の算数、理科、総合的な学習の時間等におけるプログラミング教育実践を構想し、その指導案を作成する。そして、それに基づいた模擬授業を行うことにより、プログラミング教育における実践的指導力を育成する。</p> <p>*「プログラミング的思考」とは、「自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力」(文部科学省「小学校プログラミング教育に関する手引き」より)</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 小学生に「プログラミング的思考」を育成する必要性を理解できる。 小学校におけるプログラミング教育の教材開発方法や指導方法を習得できる。 小学校におけるプログラミング教育の授業を構想し実践できる。 				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：ガイダンス (小学校におけるプログラミング実践、教師に必要な実践的指導力)</p> <p>第2回：先進的な取組 (STEAM 教育、未来の教室等)</p> <p>第3回：高学年実践の授業構想と模擬授業①_実践の方向性検討</p> <p>第4回：高学年実践の授業構想と模擬授業①_教材開発</p> <p>第5回：高学年実践の授業構想と模擬授業①_教材開発</p> <p>第6回：高学年実践の授業構想と模擬授業①_指導案作成</p> <p>第7回：高学年実践の授業構想と模擬授業①_模擬授業とリフレクション</p> <p>第8回：高学年実践の授業構想と模擬授業①_授業改善</p> <p>第9回：低中学年実践の授業構想と模擬授業②_実践の方向性検討</p> <p>第10回：低中学年実践の授業構想と模擬授業②_教材開発</p> <p>第11回：低中学年実践の授業構想と模擬授業②_教材開発</p> <p>第12回：低中学年実践の授業構想と模擬授業②_指導案作成</p> <p>第13回：低中学年実践の授業構想と模擬授業②_模擬授業とリフレクション</p> <p>第14回：低中学年実践の授業構想と模擬授業②_授業改善</p> <p>第15回：総括 (カリキュラムマネジメント、教師に必要な実践的指導力)</p>				
アクティブラーニング	ものづくりの重視 グループによる模擬授業の検討と発表、リフレクション				
授業内の ICT 活用	ICT を利用して実際にプログラミングを体験する。				
評価方法	(1) 授業で課した課題 (模擬授業、指導案、教材開発など) の評価…60% (2) 授業態度 (学習記述、参加態度など) …40%				
課題に対するフィードバック	各回に記入した授業ワークシートをもとに、次の授業の中でフィードバックを行う。レポートや指導案はルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。				
指定図書	授業時に資料配付				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考

参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	各授業において予習・準備すべき内容を提示する。毎回の授業内容を振り返るためのプリントを配布する。(学修の目安時間は40分)				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問には、授業時に直接、もしくは研究室訪問にてお答えします。				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	国際教育実習 I
科目責任者	太田 雅子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3, 4, 5, 6, 7, 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	<p>本学の理念と共通する海外で学校において実習を行う。現地での教育（初等・幼児）の展開について理解する。訪問国の教育実践の現状や文化について体験的に学び、国際的視野（比較教育）を養う。価値観の多様性や異文化を理解しながら教職として必要な知識・技能、態度を身につけ、その任務と使命を理解する。</p> <p>「国際教育実習Ⅱ」ではⅠの学びをさらに深める。日本の教育の概要について実習先の人々に説明したり討論したりする中、国際的視野を持つ人の育成・教育のあり方について考察する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 聖隷の教育理念と共通する海外での教育（幼児教育）の展開について理解することができる。 2. 訪問する国の教育の現況を体験的に学び、国際的な視野を持つことができる。 3. 日本の教育の概要について、様々な資料を用いて実習先の人に報告・説明することができる。 4. 自らの海外での体験を実習目標にもとづいて振り返り、発表することができる。 5. 価値観の多様性や異文化を受容しながら教職・保育職としての任務と使命を理解することができる。
授業計画	<p><担当教員名>太田雅子、Patterson、二宮貴之、モーテン・ヴァテン <授業内容・テーマ等> 実習事前指導（渡航前） 国際教育実習の目的について 実習施設について調べる—実習施設についての発表 実習日程・内容について、渡航に関するガイダンス（英語学習を含む） 本実習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習先（候補）： インマヌエル・カレッジ（オーストラリア・ゴールドコースト） 2. 実習内容 ①見学・観察実習 ②参加実習 3. 実習先での講義やディスカッション、プレゼンテーション、他施設視察 4. 評価・反省（まとめ） 実習事後指導（帰国後） ①自己評価（評価表の項目に沿って）を行う ②個別面談（施設側からの評価表が届き次第）を行い、自己覚知をする ③実習報告会の準備をする ④実習報告会にて発表する
アクティブラーニング	実習科目
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	<p>評価については、現地の実習担当者からの評価、実習記録、実習レポート、事後学習における評価などで、総合的に行う。具体的な評価項目は、以下の通りある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習指導者の評価 ・事前事後学習の取り組み（レポートを含む） ・実習報告会での成果発表 ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。

指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
参考図書	インマヌエルカレッジに関するパンフレット等					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	事前学習：実習先の国の教育・文化等調べる。英会話力を身に付ける。 事後学習：発表等から他からの質疑応答によりさらに調べ答える 学修の目安時間は40分					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	太田 雅子 (5707 研究室) メール:masako-o@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「小学校」「幼稚園」「認定こども園」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	国際教育実習Ⅱ
科目責任者	太田 雅子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3, 4, 5, 6, 7, 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	<p>本学の理念と共通する海外で学校において実習を行う。現地での教育（初等・幼児）の展開について理解する。訪問国の教育実践の現状や文化について体験的に学び、国際的視野（比較教育）を養う。価値観の多様性や異文化を理解しながら教職として必要な知識・技能、態度を身につけ、その任務と使命を理解する。</p> <p>「国際教育実習Ⅱ」ではⅠの学びをさらに深める。日本の教育の概要について実習先の人々に説明したり討論したりする中、国際的視野を持つ人の育成・教育のあり方について考察する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 聖隷の教育理念と共通する海外での教育（幼児教育）の展開について理解することができる。 2. 訪問する国の教育の現況を体験的に学び、国際的な視野を持つことができる。 3. 日本の教育の概要について、様々な資料を用いて実習先の人に報告・説明することができる。 4. 自らの海外での体験を実習目標にもとづいて振り返り、発表することができる。 5. 価値観の多様性や異文化を受容しながら教職・保育職としての任務と使命を理解することができる。
授業計画	<p><担当教員名>太田雅子、Patterson、二宮貴之、モーテン・ヴァテン <授業内容・テーマ等> 実習事前指導（渡航前） 国際教育実習の目的について 実習施設について調べる—実習施設についての発表 実習日程・内容について、渡航に関するガイダンス（英語学習を含む） 本実習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習先（候補）： インマヌエル・カレッジ（オーストラリア・ゴールドコースト） 2. 実習内容 ①見学・観察実習 ②参加実習 3. 実習先での講義やディスカッション、プレゼンテーション、他施設視察 4. 評価・反省（まとめ） 実習事後指導（帰国後） ①自己評価（評価表の項目に沿って）を行う ②個別面談（施設側からの評価表が届き次第）を行い、自己覚知をする ③実習報告会の準備をする ④実習報告会にて発表する
アクティブラーニング	実習科目
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	<p>評価については、現地の実習担当者からの評価、実習記録、実習レポート、事後学習における評価などで、総合的に行う。具体的な評価項目は、以下の通りある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習指導者の評価 ・事前事後学習の取り組み（レポートを含む） ・実習報告会での成果発表 ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。

指定図書						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
参考図書						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	<p>事前学習：実習先の国の教育・文化等調べる。英会話力を身に付ける。 事後学習：発表等から他からの質疑応答によりさらに調べ答える 学修の目安時間は40分</p>					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	太田 雅子 (5707 研究室) メール:masako-o@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「小学校」「幼稚園」「認定こども園」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	子ども家庭支援論				
科目責任者	泉谷 朋子				
単位数他	2単位 (30時間) 選択 6セメスター				
DP 番号と科目領域	DP6 専門				
科目の位置付	教育・保育の領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携・協働することができる。				
科目概要	この科目では、各家庭の背景、家族の状況を理解するための視点、子どもと家族が安全に安心して生活できるよう、保育の専門性を活かした子ども家庭支援について学ぶ。地域の資源の活用、関係機関との連携・協力等により展開されている子どもと家族のニーズに応じた多様な支援について、事例や映像教材を用いて学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども家庭支援の意義について理解できる 2. 子ども家庭支援に係る制度や実施体系等について説明できる 3. 子どもの最善の利益、子どもの権利保障について説明できる 4. 地域資源の活用、関係機関との連携等により行われている家族のニーズに応じた支援について理解できる 				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 子ども家庭支援の意義と目的</p> <p>第2回 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進</p> <p>第3回 子ども家庭支援に関連する社会資源</p> <p>第4回 保育の専門性を活かした子ども家庭支援</p> <p>第5回 支援に必要な基本的態度・姿勢</p> <p>第6回 子ども家庭支援の形態と支援方法</p> <p>第7回 家庭の状況に応じた支援① 家族とは</p> <p>第8回 家庭の状況に応じた支援② ひとり親家庭への支援</p> <p>第9回 家庭の状況に応じた支援③ 障害のある子どもとその家族への支援</p> <p>第10回 家庭の状況に応じた支援④ 外国にルーツを持つ子どもと家族への支援</p> <p>第11回 家庭の状況に応じた支援⑤ 要支援・要保護児童とその家族への支援</p> <p>第12回 保育所等を利用する子どもと家族への支援</p> <p>第13回 地域の子育て家庭への支援</p> <p>第14回 子ども家庭支援における関係機関との連携・協働</p> <p>第15回 これからの子ども家庭支援</p>				
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・PBL (課題解決型学習)、ディスカッション、グループワークなどを用いて授業を行う ・講義中、発言を求めることがある 				
授業内の ICT 活用	出欠管理、授業資料配布、課題・レポート・リアクションペーパー等の提出はWebClassで行う。授業中にPCの利用を認める				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・リアクションペーパー30%、課題30%、最終レポート40% ・授業への取り組み、課題、レポート評価にルーブリックを用いる。 				
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・リアクションペーパー、課題、レポートについては、授業内でフィードバックを行う 				
指定図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
子ども家庭支援論 第2版	公益財団法人児童育成協会	中央法規出版	2000	9784805887882	
参考図書	授業時に提示する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考

事前・事後学修	<p>【事前学修】各回の授業内容に基づき、教科書の該当箇所を事前に読んでおく。教科書の該当ページは初回授業で指示する。(40分)</p> <p>【事後学修】授業資料等を用いて授業内容を振り返る。毎回学びをまとめ、WebClassに提出する(40分)</p> <p>・課題、最終レポートについては初回授業で説明する。</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	<p>科目責任者の研究室(2708)</p> <p>日時については、初回授業時に提示する</p>				
実務経験に関する記述	<p>本科目は「児童家庭福祉」の実務経験を有する講師が、実務の観点を踏まえて講義を行う科目です</p>				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	子育て支援					
科目責任者	池田 信子					
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 6 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP7 専門					
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。					
科目概要	保育士が行う子育て支援について、その状況・ニーズに合わせての内容・方法（技術）や展開の仕方について実践事例等を通して具体的に学ぶ。地域の関係機関との連携・協働、保育所全体の体制作りについて理解を深める。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の専門性を用いての保護者に対する相談・助言（保育ソーシャルワーク）について理解する。 2. 保育士が行う子育て支援について様々な場や対象に合わせての支援の内容・方法・技術を、実践（事例）を通して具体的に理解する。 3. 「子育て支援」の課題となっている生活環境について、自分の言葉で説明できるようになる。 					
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：子育て支援・保護者支援とは</p> <p>第2回：保護者との相互理解と信頼関係の形成</p> <p>第3回：子育て支援の5つのプロセス（関係・課題・支援・振り返り・環境設定）</p> <p>第4回：障害のある子どもの家族に対する子育て支援</p> <p>第5回：多様なニーズを抱える子育て家庭（貧困・外国籍の子ども等）に対する支援</p> <p>第6回：研究発表（多様な子育て支援に関するケースに関するグループ発表）</p> <p>第7回：研究発表（多様な子育て支援に関するケースに関するグループ発表）</p> <p>第8回：まとめ（小テスト）</p>					
アクティブラーニング	学生自身が子育て支援の計画を立て実践を行う。講義内容を受けての調査・グループディスカッションや発表等、共同的な学びを行う。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	課題の発表（グループ）20%、小テスト20%、授業振り返りシートの記述10%、レポート50%。ルーブリックは用いない。課題の提出が遅れると減点される。					
課題に対するフィードバック	各回に記入したリアクションペーパー等を次の授業の中でフィードバックをする。					
指定図書	その都度プリントを配布する。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書	授業の中で随時提示する。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
事前・事後学修	授業の中で次回の内容予告や課題を提示するので、関連するサイトや文献を用いて原則として、40分程度の事前・事後学習すること、また教材研究を十分に行い子育て支援の実践準備をすること。					
オープンエデュケーション	なし					

の活用	
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は幼稚園教諭の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	保育実習指導Ⅱ				
科目責任者	杉山 沙旺美				
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 6 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP5 専門				
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。				
科目概要	保育実習ⅠAを踏まえ、実習の全領域(半日実習もしくは1日実習)にわたる実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的が理解できる。 2. 保育士の職務、乳幼児の生活を理解し、具体的な保育の活動を計画し、作成をする。 3. 保護者に対する支援、地域子育て支援の内容を理解する。 4. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 				
授業計画	<p><担当教員>杉山沙旺美、鈴木光男、二宮貴之、渡邊拓真 <授業内容・テーマ等></p> <p>【事前指導】</p> <p>第1回：杉山 オリエンテーション(保育実習Ⅱの目的・事務手続き)</p> <p>第2回：杉山 保育の記録の作成</p> <p>第3回：渡邊 保護者への支援・地域子育て支援とは</p> <p>第4回：担当者全員 教材研究と指導計画の作成・模擬保育①(前半)</p> <p>第5回：担当者全員 教材研究と指導計画の作成・模擬保育②(後半)</p> <p>第6回：担当者全員 実習直前指導、事務連絡</p> <p>【事後指導】</p> <p>第7回：杉山 実習の振り返り</p> <p>第8回：担当者全員 実習報告会・個人面談</p>				
アクティブラーニング	演習科目です。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	<p>授業への取り組み(20%) 指導計画の作成・教材の作成・模擬保育(30%) 実習振り返りレポート(30%) 実習報告会(20%) ルーブリックを用いて評価を行う。ルーブリックの基準・内容は授業の中で説明を行う。</p>				
課題に対するフィードバック	記録や課題については、添削し返却をします。また、実習報告会では教員からの講評をします。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
これからの時代の保育者養成・実習ガイド	大豆生田 啓友	中央法規出版	1800	9784805882221	

保育所保育指針解説 平成30年 3月	厚生労働省／編	フレーベル館	320	9.7845778145e+12	
参考図書	下記参照。その他授業の中で提示する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
幼保連携型認定こども園教育・保育 要領解説 平成30年3月	内閣府／〔著〕 文部 科学省／〔著〕 厚生 労働省／〔著〕	フレーベル館	350	9784577814499	
事前・事後学修	<p>【事前学修】 実習ノートにオリエンテーション内容の記入、ピアノ練習、教材研究など、実習で必要となる内容について作成します。</p> <p>【事後学修】 実習先と同じ評価表を用い、手引きに記載された内容に基づき自己評価をします。実習ノート、実習先からの評価表を基に巡回教員と面談を行い、実習を振り返り、自己課題を見出します。</p> <p><それぞれの目安時間は約40分></p>				
オープンエデュケーション の活用	なし				
オフィスアワー	杉山沙旺美 (2609 研究室) メール: saomi-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は保育所、幼稚園、認定こども園、小学校での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	保育実習指導Ⅲ				
科目責任者	渡邊 拓真				
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 6 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP5 専門				
科目の位置付	教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。				
科目概要	保育所以外の居住型児童福祉施設、通所型児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、施設の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習 I B の経験を基に、さらに施設保育士の職務について理解を深める 2. 領域別における保育の質の違いを理解しながら求められる保育について具体化する 3. 施設への入所理由を理解しながら、関わり方について模索する 4. 他の専門職との連携について理解する 				
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：イントロダクション・保育実習 I B との違いについて 第2回：実習日誌とオリエンテーションについて 第3回：各配属領域の保育内容について(発表) 第4回：職員の職務や連携の重要性について 第5回：入所理由の理解と関わり方について 第6回：各配属領域と地域との連携について・直前指導 第7回：事後指導① 実習の振り返り 第8回：事後指導② 実習報告				
アクティブラーニング	実習科目なので、事前学習から実習、事後学修に至るまで、主体的な課題解決型学習・ディスカッション・ディベート・グループワーク・プレゼンテーション・実習などのアクティブラーニングの姿勢が求められる。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	授業への取り組み (20%)、課題 (20%)、レポート (30%)、実習報告会 (30%) 計 100% で評価する。レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。				
課題に対するフィードバック	毎回リアクションペーパーの意見や問題提起を全員で共有しながら進める。				
指定図書	ありません				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
参考図書	以下に記載します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
福祉施設実習テキストブック	栗山 宣夫	建帛社	2100	9784767951362	
事前・事後学修	これまでの実習の振り返りをしっかりと行い、新たな実習先については良く調べておく。事前・事後学習にはそれぞれ 40 分をあてること。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	渡邊 拓真 (5709 研究室) メール: @seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				

実務経験に関する記述	本科目は幼稚園や福祉での臨床経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	保育実習 I B					
科目責任者	渡邊 拓真					
単位数他	2 単位 (90 時間) 選択 5 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP5 専門					
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。					
科目概要	保育所・認定こども園以外の居住型児童福祉施設ならびに通所型児童福祉施設の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、施設の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。					
到達目標	1. 子どもとの関わりを通して、子どものニーズを理解しながら関わるができる。 2. 児童福祉施設における生活とその概要を理解する。 3. 保育士として必要な知識、技術、態度を身につけ、その任務と使命を理解する。					
授業計画	<p><担当教員名>渡邊拓真、鈴木光男、福重浩之、二宮貴之、和久田佳代、杉山沙旺美、飯田真也、竹本石樹</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>実習内容：詳細は保育実習 I B の手引きを参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 養護の一日の流れを理解し、参加する。 2. 子どもの集団活動、個別活動を観察し、養護技術を習得する。 3. 子どもの生活での援助といった一部分を担当し、養護技術を習得する。 4. 保育士の職務内容と役割、他職種との連携について学ぶ。 5. 施設での個別記録、送迎の際の保護者とのコミュニケーションを通して、家庭・地域社会を理解する。 6. 施設における子どもの安全および健康に対する配慮について理解する。 <p>実習の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保育所・認定こども園以外の児童福祉施設等にて 90 時間 (10 日間) 以上の配属実習を行う。 ○実習日誌に一日の記録を作成し、担当保育士からの指導を受ける。 ○実習の振り返りを施設長、実習担当者と共に行う。 					
アクティブラーニング	実習科目なので、事前学習から実習、事後学修に至るまで、主体的な課題解決型学習・ディスカッション・ディベート・グループワーク・プレゼンテーション・実習などのアクティブラーニングの姿勢が求められる。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	実習施設からの評価 (40%) 実習日誌 (30%)、 学生と教員との面談における振り返り (30%) ルーブリックを用いて評価を行う。ルーブリックの基準・内容は授業の中で説明を行う。					
課題に対するフィードバック	実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。					
指定図書	ありません					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	以下に記載します。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
施設実習パーフェクトガイド		かわば社	1400	9784907270094		

事前・事後学修	<p>【事前学修】実習先の種別、概要、特色等についてグループで調べ、整理をします。また、調べた内容やオリエンテーションの内容については、実習ノートに必要箇所の記入をします。</p> <p>【事後学修】実習終了後は、保育士の仕事への理解、子どもとの関わりへの理解について実習ノートを書き、翌日の課題を明らかにしましょう。</p> <p>学修の目安は40分</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	渡邊 拓真 (5709 研究室) メール: @seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は幼稚園や認定こども園、小学校での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	保育実習Ⅱ
科目責任者	杉山 沙旺美
単位数他	2単位 (90時間) 選択 6セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	保育実習ⅠAでの実習を踏まえ、保育士の職務、乳幼児の生活を理解し、具体的保育の活動を計画、実践する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 観察・参加実習の全領域にわたる実習を行い、理論と実践の結びつきを経験し、乳幼児を理解する。 2. 保育士としての職業倫理を理解し、乳幼児に対する最善の利益への配慮を理解する。 3. 家庭と地域の生活実態に触れ、子ども家庭福祉のニーズに対する理解力・判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。
授業計画	<p><担当教員名>杉山沙旺美、鈴木光男、渡邊拓真、和久田佳代、飯田真也、福重浩之、竹本石樹</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>実習の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生は保育所・認定こども園にて90時間(10日間)以上の配属実習を行う。 2. 原則として、実習時間は職員の勤務時間に準じるが、変則勤務(早班・遅番)を必ず行うこととする。 3. 実習、責任実習を行うための指導案の作成をし、担当保育士からの指導を受け、実践する。 4. 実習日誌は、学校指定の用紙もしくは園指定の用紙を使用し、担当保育士からの指導を受ける。 5. 実習の振り返りを、園長、実習担当者、担当保育士と共に行う。 <p>実習内容：詳細は保育実習の手引きを参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 観察実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 乳幼児の1日の生活の流れを理解し、担当クラスの子どもの関わりを深める。 2) 乳幼児の集団活動、個別活動を観察するなかで、人とのかかわり方を知る。 3) 保育士の職務内容と役割、他職種との連携について学ぶ。 2. 参加・部分実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 保育活動に補助的に参加し、乳幼児の援助・保育をする。 2) 乳幼児の安全および健康に対する配慮と、状況に応じた対応の方法を学ぶ。 3) 担当するクラスの週案に従い、部分的な実習を行う。 3. 責任実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 担当するクラスに即した日案を作成し、主体となって保育を行う。 2) 保育前の準備、保育後の整理等、保育士としての仕事全般の実習をする。 3) 1日もしくは半日実習などを体験し、保育所・認定こども園における保育活動の流れを理解する。 4) 課題を設定し、問題意識をもって実習をする。
アクティブラーニング	実習科目
授業内のICT活用	なし
評価方法	<p>実習園からの評価(40%)</p> <p>実習日誌・指導計画(30%)</p> <p>学生と教員との面談における振り返り(30%)</p> <p>ルーブリックを用いて評価を行う。ルーブリックの基準・内容は授業の中で説明を行う。</p>
課題に対するフィードバック	実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。

ク						
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	<p>【事前学修】各年齢の子どもの発達を理解、実践にあたっての教材研究を行きましょう。 また、指導計画は、子どもの姿を捉え、発達に則した内容を作成しましょう。</p> <p>【事後学修】実習終了後は、保育士の仕事への理解、子どもとの関わりへの理解について 実習ノートを書き、翌日の課題を明らかにしましょう。 学修の目安は40分。</p>					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	杉山沙旺美 (2609 研究室) メール: saomi-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は、保育所、幼稚園、認定こども園、小学校での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	保育実習Ⅲ					
科目責任者	渡邊 拓真					
単位数他	2 単位 (90 時間) 選択 6 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP5 専門					
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。					
科目概要	保育実習ⅠBでの実習を踏まえ、保育所以外の児童福祉施設、その他の社会福祉施設の養護を実際に行い、保育士として必要な資質・能力・技術を習得することを目的とする。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 見学・観察・参加実習の全領域にわたる実習を行い、理論と実践の結びつきを経験し、児童を理解する。 2. 保育士としての職業倫理を理解し、児童に対する最善の利益への配慮を理解しながら関わる。 3. 家庭と地域の生活実態にふれ、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力・判断力を養うとともに、子育て支援するために必要とされる能力を養う。 4. 施設が社会にむけてどのような情報を発信し、どのような機能を提供しようとしているのかを理解する。 					
授業計画	<p><担当教員名>坂渡邊拓真、鈴木光男、福重浩之、二宮貴之、和久田佳代、杉山沙旺美、飯田真也、竹本石樹</p> <p><授業内容・テーマ等> 実習内容：詳細は保育実習の手引きを参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の社会的使命を理解する 2. 職員の職務やチームワークを理解する 3. 施設における保育士あるいは他の専門職の専門性を理解する 4. 担当する子どものケーススタディの実践を理解する 5. 地域事業との関連について理解する 6. 各種法令・法規と施設との関係について理解する <p>実習の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所以外の児童福祉施設等にて 10 日間の配属実習を行う ・実習日誌に 1 日の記録をし、担当保育士からの指導を受ける ・実習の振り返りを施設長、実習担当者と共に進行 					
アクティブラーニング	実習科目なので、事前学習から実習、事後学修に至るまで、主体的な課題解決型学習・ディスカッション・ディベート・グループワーク・プレゼンテーション・実習などのアクティブラーニングの姿勢が求められる。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	実習園からの評価 (40%)、実習日誌・指導計画 (30%)、学生と教員との面談における振り返り (30%) で総合的に評価する。					
課題に対するフィードバック	実習記録を中心に、実習巡回や帰校日においてフィードバックを行う。					
指定図書	ありません					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	以下に記載します。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	

福祉施設実習テキストブック	栗山 宣夫	建帛社	2100	9784767951362	
事前・事後学修	これまでの実習の振り返りをしっかりと行い、新たな実習先については良く調べておく。事前・事後学修にはそれぞれ40分をあてること。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	渡邊 拓真 (5709 研究室) メール: @seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は認定こども園や幼稚園、小学校の実務経験と福祉の指導経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	社会福祉学概論Ⅱ				
科目責任者	佐藤 順子				
単位数他	2単位 (30時間) 選択 6セメスター				
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (SC) DP2 専門				
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (SC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。				
科目概要	社会福祉学概論Ⅰで学修した内容を踏まえ、社会福祉の思想・哲学・理論を理解した上で、福祉政策について、基本的な視点、ニーズと福祉政策の過程、動向と課題、関連施策、国際比較について、さらに福祉サービス供給と利用過程、社会福祉の理論について学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の原理、理論を説明できる 2. 福祉政策の基本的な視点として概念や理念を説明できる 3. 人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結び付けて説明できる 4. 福祉政策の動向と課題について、さらにそれらを踏まえた上で、関連施策や包括的支援について説明できる 5. 福祉サービスの供給と利用過程について説明できる 6. 福祉政策の国際比較の視点を理解した上で、欧米との比較によって日本の福祉政策の特性について説明できる 				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：ガイダンス、今までの学びの振り返り</p> <p>第2回：社会福祉の思想・哲学</p> <p>第3回：社会福祉の理論、社会福祉の論点</p> <p>第4回：福祉政策の基本的な視点</p> <p>第5回：福祉政策におけるニーズと資源</p> <p>第6回：福祉政策の構成要素と過程</p> <p>第7回：中間テスト 解説 福祉政策の動向と課題</p> <p>第8回：福祉サービスの供給と利用過程</p> <p>第9回：福祉政策と関連施策 ① 保健医療政策</p> <p>第10回： // ② 教育政策</p> <p>第11回： // ③ 住宅政策</p> <p>第12回： // ④ 労働政策、災害政策</p> <p>第13回：権利擁護と成年後見 ～意義と実践～</p> <p>第14回：福祉政策の国際比較</p> <p>第15回：諸外国における福祉政策の動向</p>				
アクティブラーニング	ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する				
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> ・webClass を活用して双方向型授業を行います ・事前・事後学修課題についてはwebclass に提出します 				
評価方法	授業態度 10%、中間テスト 20%、課題 10%、定期試験 60%				
課題に対するフィードバック	毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する 中間テスト実施後解説を行う				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 4 社会福祉の原理と政策	日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集	中央法規出版	2900	9784805882344	冊子版

参考図書	岩田正美『社会福祉のトポス』有斐閣				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<p>事前学修：毎回の授業で学ぶ項目について、教科書の該当箇所をあらかじめ読んでキーワードをまとめるなどして授業に臨む（各 30 分）</p> <p>事後学習：毎回学びをまとめ、webclass に提出する webclass 内の復習課題に取り組む</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	佐藤 順子（2606 研究室） メール：junko-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は社会福祉の実務経験を有する社会福祉士が実務の観点を踏まえて教授する科目です				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	保育実践演習
科目責任者	杉山 沙旺美
単位数他	2単位 (30時間) 選択 8セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門基礎
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	保育者を目指すためのこれまでの学修の総括を行う。保育者の資質として、①使命感（倫理）や愛情、②社会性や対人関係、③乳幼児理解やマネジメント、④保育内容等の援助・指導力に関する自己評価を行い、課題を明らかにし、解決のための具体的方法を考案する。
到達目標	1. 保育者を目指す者としての自己の課題を明らかにし、課題解決に向けての方法を探る。 2. 保育職の意義や役割を確認する。 3. クラス運営について理解する。 4. 保育者や保護者との連携・協力のために必要なスキル・姿勢について理解する。 5. 援助・指導力やコミュニケーション能力向上のための方法について理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員：杉山沙旺美・太田雅子></p> <p>第1回：杉山 オリエンテーション 実習等を通しての自己評価と今後の課題を明らかにする</p> <p>第2回：杉山 子育て広場たつくんへの参加（計画と実践）</p> <p>第3回：太田・杉山 新任保育者としての課題《附属こども園保育者より》</p> <p>第4回：太田・杉山 保育者を志すものとして《附属こども園保育者より》</p> <p>第5回：杉山 保育者の専門性とは</p> <p>第6回：杉山 保育者の専門性（関わり）</p> <p>第7回：杉山 子どものまなざし・保育者の思い①《ゲストスピーカー：宮里暁美氏》</p> <p>第8回：杉山 子どものまなざし・保育者の思い②《ゲストスピーカー：宮里暁美氏》</p> <p>第9回：太田 チームの質を高める関わりの技術 ①自分の意見を伝える</p> <p>第10回：太田 チームの質を高める関わりの技術 ②互いの強み弱みを生かした関わり</p> <p>第11回：杉山 専門職にはふさわしくない関わりとは</p> <p>第12回：杉山 専門職にはふさわしくない関わりをなくす環境づくり</p> <p>第13回：杉山 保育者として求められること①《ゲストスピーカー：鈴木まき子氏》</p> <p>第14回：杉山 保育者として求められること②《ゲストスピーカー：鈴木まき子氏》</p> <p>第15回：杉山・太田 まとめ 保育者になることへの期待と希望</p> <p>※定期試験は実施しない</p>
アクティブラーニング	学生自身が保育・子育て支援の計画を立て実践を行う。講義内容を受けてのグループディスカッションや発表等、協働的な学びを進める。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業態度（リアクションペーパー・課題）：30% 子育て広場のプランと実践：30%

	レポート：40% レポートについてルーブリックを用いて評価を行う。ルーブリックの基準・内容は授業の中で説明を行う。				
課題に対するフィードバック	記入したリアクションペーパーはコメントして返却及び授業の中でフィードバックをする。課題・レポートについては添削して返却する。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
改訂 保育者の関わりの理論と実践：保育の専門性に基づいて	高山静子	郁洋舎	2000	9784910467016	
参考図書	授業の中で提示する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	授業の中で次回の内容予告や課題を提示するので、関連するサイトや文献を用いて原則として、40分程度の事前・事後学修すること。また、教材研究を十分に行い、保育・子育て支援の実践準備をすること。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	杉山沙旺美 (2609 研究室) メール：saomi-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は幼稚園、保育所、認定こども園での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	地域福祉論 I				
科目責任者	佐藤 順子				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター				
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (SC) DP2 専門				
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (SC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。				
科目概要	近年の地域社会の変化と地域生活課題を概観したうえで、地域福祉の対象、主体、歴史、動向、概念と理論等を含む基本的な考え方を理解する。また地域福祉を含む福祉行政と財政の基本的な仕組みを理解する。				
到達目標	1. 地域福祉の基本的な考え方として地域福祉の概念と理論の概要が説明できる 2. 地域生活課題の概要が説明できる 3. 地域福祉の歴史、動向について説明できる 4. 地域福祉の主体である地方自治体、民間組織について説明できる 5. 地域福祉を推進するための福祉行政システムについて説明できる				
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：ガイダンス 授業の概要・目標、進め方 第2回：地域社会と生活、地域生活課題 第3回：地域福祉の推進主体① 地域福祉の推進主体とは 地方自治体、社会福祉協議会、社会福祉法人 第4回：地域福祉の推進主体② 民生委員・児童委員、町内会・自治会 第5回：地域福祉の推進主体③ NPO 法人、当事者組織、その他 第6回：地域福祉の歴史① 地域福祉の源流 第7回：地域福祉の歴史② 戦後社会福祉の発展と地域福祉 第8回：地域福祉の歴史③ 近年の地域福祉政策の動向と課題 第9回：中間テスト 解説 第10回：地域福祉が目指すもの：日常生活圏域における地域福祉活動の実践例 ゲストスピーカー 三方原地区社会福祉協議会 役員 第11回：地域福祉の概念と理論 第12回：地域福祉の推進課題 コミュニティソーシャルワーク、地域再生、住民の主体形成等 第13回：福祉行政システム① 国、都道府県、市町村の役割、国と地方の関係 第14回：福祉行政システム② 福祉行政の組織及び専門職の役割 第15回：福祉行政システム③ 福祉における財源、まとめ</p>				
アクティブラーニング	ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する				
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> WebClass を活用して双方向型授業を行う 事前・事後学修課題については WebClass に提出する 				
評価方法	授業態度 10%、中間テスト 20 点、課題 20 点、定期試験 50%				
課題に対するフィードバック	毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する。中間テスト実施後は解説を行う。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 6 地域福祉と包括的支援体制	日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集	中央法規出版	2900	9784805882368	冊子版

参考図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
テキストボックス [つかむ] 地域 福祉援助をつかむ	岩間伸之	有斐閣	2100	9784641177147	冊子版	
事前・事後学修	事前学修：事前課題に取り組む 事後学習：事後課題（国家試験過去問含む）に取り組む 毎回学びを振り返り、わかったことをまとめる（毎回40分程度）					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	佐藤 順子（2606研究室） メール：junko-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は地域福祉の実務経験を有する社会福祉士が実務の観点を踏まえて教授する科目です					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	国際福祉実習 I
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2 単位 (90 時間) 選択 4, 5, 6, 7, 8 セメスター
DP 番号と科目領域	(SW) DP7 専門 (SC) DP7 専門 (EC) DP7 専門
科目の位置付	(SW) 社会福祉に関する地域社会および国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。 (SC) 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。 (EC) 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職者として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	国際福祉実習 I～IVは、国際社会に貢献できる人材育成を行うために、実際に会議に出かけ、その国の様々な社会福祉事情や文化を体験することにより、価値観の多様性や異文化を受容することを学ぶ。国際的な視野を養い、グローバルな社会福祉の課題解決のための考察を行う(アクティブラーニング) ※国際福祉実習 I～IVは、期間を意味する。2 週間の場合は、I のみ履修。4 週間の場合は、I・IIを履修。6 週間・8 週間の場合は I～III、I～IVの履修となる。
到達目標	1. 聖隷の理念に基づく海外での社会福祉事業の展開について理解することができる。 2. 訪問する国の社会福祉の現況を体験的に学び、国際的な視野を持つことができる。 3. 日本の社会福祉の概要について、様々な資料を用いて実習先の人に報告・説明することができる。 4. 自らの海外での体験を実習目標にもとづいて振り返り、発表することができる。 5. 価値観の多様性や異文化を受容しながら福祉職としての任務と使命を理解することができる。
授業計画	<科目担当者> 川向雅弘 <授業内容・テーマ等> ・実習事前指導(渡航前) 国際福祉実習の目的について-「聖隷の理念と歴史」との関係を含む 実習施設について調べる-実習施設についての発表 実習日程・内容について、渡航に関するガイダンス(英語学習を含む) ・本実習 実習先: インド聖隷希望の家(知的障害者教育施設) 韓国 東明高齢者福祉センター(高齢者施設)・東明児童福祉センター(児童養護施設) 実習内容 見学・観察実習 参加実習 実習先での講義やディスカッション、プレゼンテーション、他の施設見学 評価・反省(まとめ) ・実習事後指導(帰国後) 自己評価(評価表の項目に沿って)を行う 個別面談(施設側からの評価表が届き次第)を行い、自己覚知をする 実習報告会の準備をする 実習報告会にて発表する
アクティブラーニング	実習・フィールドワーク(施設見学)・プレゼンテーション
授業内の ICT 活用	ZOOM を使用して、実習施設とのやりとりを行う。

評価方法	<p>評価については、現地の実習担当者からの評価、実習記録・実習レポート、事前・事後学習における評価などで、総合的に行う。具体的な評価項目は、以下の通りある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習施設からの評価 (30%)、実習記録・実習レポート (30%)、 ・事前・事後学習の取り組み (30%) ・実習報告会での成果発表 (10%) ルーブリックは用いない。 					
課題に対するフィードバック	実習報告会を実施し、報告内容についてフィードバックを行う					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
事前・事後学修	<p>事前学習：実習先の国の文化等調べる。英会話力を身に付ける。</p> <p>事後学習：発表等から他からの質疑応答によりさらに調べ答える。</p> <p>各学修の目安は40分</p>					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	川向 雅弘 (2705 研究室) メール:masahiro-k@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「社会福祉士」として社会福祉現場の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	国際福祉実習Ⅱ
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2単位 (90時間) 選択 4, 5, 6, 7, 8セメスター
DP 番号と科目領域	(SW) DP7 専門 (SC) DP7 専門 (EC) DP7 専門
科目の位置付	(SW) 社会福祉に関する地域社会および国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。 (SC) 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。 (EC) 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職者として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	国際福祉実習Ⅰ～Ⅳは、国際社会に貢献できる人材育成を行うために、実際に会議に出かけ、その国の様々な社会福祉事情や文化を体験することにより、価値観の多様性や異文化を受容することを学ぶ。国際的な視野を養い、グローバルな社会福祉の課題解決のための考察を行う(アクティブラーニング) ※国際福祉実習Ⅰ～Ⅳは、期間を意味する。2週間の場合は、Ⅰのみ履修。4週間の場合は、Ⅰ・Ⅱを履修。6週間・8週間の場合はⅠ～Ⅲ、Ⅰ～Ⅳの履修となる。
到達目標	1. 聖隷の理念に基づく海外での社会福祉事業の展開について理解することができる。 2. 訪問する国の社会福祉の現況を体験的に学び、国際的な視野を持つことができる。 3. 日本の社会福祉の概要について、様々な資料を用いて実習先の人に報告・説明することができる。 4. 自らの海外での体験を実習目標にもとづいて振り返り、発表することができる。 5. 価値観の多様性や異文化を受容しながら福祉職としての任務と使命を理解することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> ・実習事前指導(渡航前) 国際福祉実習の目的について-「聖隷の理念と歴史」との関係を含む 実習施設について調べる-実習施設についての発表 実習日程・内容について、渡航に関するガイダンス(英語学習を含む) ・本実習 実習先: インド聖隷希望の家(知的障害者教育施設) 韓国 東明高齢者福祉センター(高齢者施設)・東明児童福祉センター(児童養護施設) 実習内容 見学・観察実習 参加実習 実習先での講義やディスカッション、プレゼンテーション、他の施設見学 評価・反省(まとめ) ・実習事後指導(帰国後) 自己評価(評価表の項目に沿って)を行う 個別面談(施設側からの評価表が届き次第)を行い、自己覚知をする 実習報告会の準備をする 実習報告会にて発表する
アクティブラーニング	実習・フィールドワーク(施設見学)・プレゼンテーション
授業内のICT活用	ZOOMを使用して、実習施設とのやりとりを行う。

評価方法	<p>評価については、現地の実習担当者からの評価、実習記録・実習レポート、事前・事後学習における評価などで、総合的に行う。具体的な評価項目は、以下の通りある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習施設からの評価 (30%)、実習記録・実習レポート (30%)、 ・事前・事後学習の取り組み (30%) ・実習報告会での成果発表 (10%) ルーブリックは用いない。 					
課題に対するフィードバック	実習報告会を実施し、報告内容についてフィードバックを行う					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
事前・事後学修	<p>事前学習：実習先の国の文化等調べる。英会話力を身に付ける。</p> <p>事後学習：発表等から他からの質疑応答によりさらに調べ答える。</p> <p>各学修の目安は40分</p>					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	川向 雅弘 (2705 研究室) メール:masahiro-k@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「社会福祉士」として社会福祉現場の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	インターンシップ I (SC)				
科目責任者	福重 浩之				
単位数他	2 単位 (90 時間) 選択 3, 4, 5, 6, 7, 8 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP5 専門				
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。				
科目概要	各施設の機能ならびに専門職者の職務や対象となる子どもの生活を理解する。子どもとの関わりの中から、具体的な保育活動や保育実践を知る。				
到達目標	1. 実習を前に、保育施設や保育実践についての理解を深める。 2. 見学・観察・参加実習を行い、理論と実践の結びつきを経験し、子どもを理解しようとする。 3. 保育や幼児教育に必要となる知識や技術を、実践を通して身に付けようとする。				
授業計画	<担当教員> 福重浩之、杉山沙旺美 <授業内容・担当> 【事前指導】 第1回 (福重・杉山) : オリエンテーション・園への依頼について 第2回 (杉山) : 保育参加時に注意点・マナー 第3回 (杉山) : 記録の視点・書き方 第4回 : (福重・杉山) : 直前指導・手続き等 【実習中 (インターンシップ)】 ・保育所・幼稚園・認定こども園において、6 回以上・計 50 時間以上の実習を行う。 ・2 カ月に 1 度大学にて、振り返り・時間数の確認等を行う。 第5回・第6回・第7回 (福重・杉山) : 振り返り・時間数の確認等 【事後指導】 第8回 (杉山) : インターンシップの振り返り 第9回 (福重・杉山) : インターンシップ報告会				
アクティブラーニング	実習科目				
授業内の ICT 活用	発表は、プレゼンテーションソフトで行う。				
評価方法	・授業への取り組み 30% ・インターンシップの記録 30% ・振り返り／報告会への取り組み 40% (計 100%) ルーブリックを用いて評価する。評価方法については、授業時に提示する。				
課題に対するフィードバック	授業での課題については意見交換を行い、情報の共有を行います。また添削をして学生に返却をします。実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

事前・事後学修	<p>【事前学修】実習に必要となる具体的な目標・教材に関する課題を実施します（40分）。</p> <p>【事後学修】授業内で話した内容や配布されたプリントの整理をし、指定された期間で提出をします（40分）。</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	<p>福重 浩之（2607 研究室） メール：hiroyuki-f@seirei.ac.jp</p> <p>杉山 沙旺美（2609 研究室） メール：saomi-s@seirei.ac.jp</p> <p>時間については、初回授業時に提示します。</p>				
実務経験に関する記述	<p>本科目は「小学校教諭」「保育士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	インターンシップⅡ (SC)					
科目責任者	福重 浩之					
単位数他	2単位 (90時間) 選択 3,4,5,6,7,8セメスター					
DP 番号と科目領域	DP5 専門					
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。					
科目概要	保育実習ⅠAやインターンシップⅠでの学修を踏まえ、保育実習Ⅱ・Ⅲに向けた課題を明確化し、実習体験を深化させる。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 見学・観察・参加実習の全領域にわたる実習を行い、理論と実践の結びつきを経験し、子どもを理解する。 2. 保育士・幼稚園教諭としての職業倫理を理解し、子どもに対する最善の利益への配慮を理解する。 3. 保育実習Ⅱ・Ⅲにおける自分の課題を明確化し、実践を通して学ぼうとする。 					
授業計画	<p><担当教員> 福重浩之、杉山沙旺美、渡邊拓真 <授業内容・担当></p> <p>【事前指導】</p> <p>第1回 (福重・杉山) : オリエンテーション・園への依頼について 第2回 (杉山・渡邊) : 保育参加時に注意点・マナー 第3回 (杉山) : 記録の視点・書き方 第4回 (福重・杉山・渡邊) : 直前指導・手続き等</p> <p>【実習中 (インターンシップ)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所・幼稚園・認定こども園において、6回以上・計50時間以上の実習を行う。 ・2カ月に1度大学にて、振り返り・時間数の確認等を行う。 <p>第5回・第6回・第7回 (福重・杉山・渡邊) : 振り返り・時間数の確認等</p> <p>【事後指導】</p> <p>第8回 (杉山・渡邊) : インターンシップの振り返り 第9回 (福重・杉山・渡邊) : インターンシップ報告会</p>					
アクティブラーニング	実習科目					
授業内の ICT 活用	発表は、プレゼンテーションソフトで行う。					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み 30% ・インターンシップの記録 30% ・振り返り／報告会への取り組み 40% (計100%) ルーブリックを用いて評価する。評価方法については、授業時に提示する。					
課題に対するフィードバック	授業での課題については意見交換を行い、情報の共有を行います。実習では、実習ノート、自己評価表を基に教員と振り返りを行います。					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	

事前・事後学修	<p>【事前学修】 実習に必要となる具体的な目標・教材に関する課題を実施します (40 分)。 【事後学修】 授業内で話した内容や配布されたプリントの整理をし、指定された期間で提出をします (40 分)。</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	福重 浩之 (2607 研究室) メール: hiroyuki-f@seirei.ac.jp 杉山 沙旺美 (2609 研究室) メール: saomi-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」「保育士」「幼稚園教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	福祉実習 I (SC)					
科目責任者	渡邊 拓真					
単位数他	2 単位 (90 時間) 選択 3, 4, 5, 6, 7, 8 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP5 専門					
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。					
科目概要	自らの関心領域において実習することで、その領域の学習を促進し、将来の進路を決定します。 福祉実習 I は 10 日間、I・II を履修の場合には 20 日間の実習期間となります。I をすでに履修済の場合は、次の実習は II として履修します。					
到達目標	1. 社会福祉の利用者の状況および社会福祉従事者の仕事を含めて社会福祉の現場を理解する。 2. 社会福祉従事者の視点や実践方法を学ぶ。 3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。					
授業計画	学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。 1. 事前学習 ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 ・一つの社会福祉施設・機関・団体において 10 日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 ・学内におけるスーパービジョン					
アクティブラーニング	実習科目なので、事前学習から実習、事後学習に至るまで、主体的な課題解決型学習・ディスカッション・ディベート・グループワーク・プレゼンテーション・実習などのアクティブラーニングの姿勢が求められる。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	事前学習 20%、配属実習 60%、事後学習 20% (含むレポート。今年度はルーブリックを用いない)					
課題に対するフィードバック	その都度行う					
指定図書	ありません					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	ありません					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	1～5 回の事前学習において、実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておくこと。5 回目、事前学習で学んだことを復習し、まとめる。6 回～10 回の実習後指導では、体験したことを言語化し整理し、最終回にレポートにまとめる。合わせて 40 分程度					

オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	渡邊 拓真 (5709 研究室) メール: @seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は幼稚園の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	福祉実習Ⅱ (SC)					
科目責任者	渡邊 拓真					
単位数他	2 単位 (90 時間) 選択 3, 4, 5, 6, 7, 8 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP5 専門					
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。					
科目概要	自らの関心領域において実習することで、その領域の学習を促進し、将来の進路を決定します。 福祉実習Ⅰは 10 日間、Ⅰ・Ⅱを履修の場合には 20 日間の実習期間となります。Ⅰをすでに履修済の場合は、次の実習はⅡとして履修します。					
到達目標	1. 社会福祉の利用者の状況および社会福祉従事者の仕事を含めて社会福祉の現場を理解する。 2. 社会福祉従事者の視点や実践方法を学ぶ。 3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。					
授業計画	学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。 1. 事前学習 ・担当教員によるオリエンテーション ・実習計画書の作成 2. 配属実習 ・一つの社会福祉施設・機関・団体において 10 日間の実習を実施 ・日ごとの実習目標の立案 ・実習記録の作成 ・実習先におけるスーパービジョン 3. 事後学習 ・学内におけるスーパービジョン					
アクティブラーニング	実習科目なので、事前学習から実習、事後学習に至るまで、主体的な課題解決型学習・ディスカッション・ディベート・グループワーク・プレゼンテーション・実習などのアクティブラーニングの姿勢が求められる。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	事前学習 20%、配属実習 60%、事後学習 20% (含むレポート。今年度はルーブリックを用いない)					
課題に対するフィードバック	その都度行う					
指定図書	ありません					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	ありません					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	1～5 回の事前学習において、実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておくこと。5 回目、事前学習で学んだことを復習し、まとめる。6 回～10 回の実習後指導では、体験したことを言語化し整理し、最終回にレポートにまとめる。合わせて 40 分程度					

オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	渡邊 拓真 (5709 研究室) メール: @seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は幼稚園の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし